

平成29年度 社会福祉法人福浜会事業報告

・ 法人	・・・	P 1
・ はまぼう	・・・	P 4
・ あにまあと	・・・	P17
・ そるとぽっと	・・・	P21
・ 松ぼっくり	・・・	P29
・ 潮の香	・・・	P39
・ 結	・・・	P46
・ 地域療育センター	・・・	P47
・ 地域生活支援	・・・	P48
・ 汐風	・・・	P50

社会福祉法人福浜会

平成 29 年度社会福祉法人福浜会事業報告

平成30年度報酬改定が行われ、改定率は全体として+0.47%となった。その基本的な考え方とその対応については、以下のとおり発表された。

- (1) 障害者の重度化・高齢化を踏まえた地域移行・地域生活の支援として、重度障害者への支援のためのグループホーム創設、一人暮らしの障害者の支援のための「自立生活援助」、地域生活支援拠点等の機能強化、共生型サービス
- (2) 医療的ケア児への対応等

医療的ケアが必要な障害児のための看護職員の配置促進、「居宅訪問型児童発達支援」

- (3)精神障害者の地域移行の推進

長期入院から地域移行のためのグループホームでの受入れ促進、地域移行支援の実績等の評価等

- (4)就労系のサービスにおける工賃・賃金の向上、一般就労への移行促進

一般就労への定着促進、一般就労移行障害者のための「就労定着支援」の報酬評価

- (5)計画相談支援・障害児相談支援における質の高い事業者の評価等

これらの改定が、現場として稼働していくのかどうか、数年後を待たないと結果は出ないが、いつも感じるのは、このような制度改正が定期的に行われ、その内容に私たち事業者は一喜一憂する。そしてその制度にどう合わせて自分たちの支援を考えていくか、を繰り返しているような気がする。2006年の障害者自立支援法以降、NPO法人だけでなく有限会社や株式会社なども就労系や障害児通所支援、最近では生活介護事業にも参入が見られる。福祉と営利の同居が果たして当事者の豊かな生活の実現につながるのか、疑問に思う時がある。就労系の事業所の閉鎖や大量解雇が言われているが、突然の事業所の閉鎖は就労系だけではない。その度に、制度改革の難しさを思う。

さて法人内については、今年度の報告として先ず挙げるのは、あにまあとの新築移転である。重症心身障害という重い障がいのある人たちを受け入れて23年を経過し、多くの方のご協力のもと、重症心身障害児(者)の人たちを主たる対象とする施設の整備を進め、平成30年5月に、生活介護(定員20名)と障害児通所支援の多機能型(放課後等デイサービス・児童発達支援 定員5名)の複合施設として出発することとなった。これまではまぼう内で活動してきたが、広々とした建物と職員配置により、これまで以上に地域から望まれる施設としてその役割を果たしていくことになる。

また今年度は初めて、磐田市障害者相談支援センター・障害者虐待防止センター委託に係るプロポザール(平成30、31年度の2年間)による募集に参加し、当法人が受託することが決まった。磐田市全域の委託相談を担うことになるが、当法人職員だけでなく、市内複数法人から職員を出向していただき、様々な課題解決に向けた協力体制を採ることになった。「障害者の権利並びに当事者の意思及び選好を尊重し、ご本人が自己決定、意思決定ができるように支援し、その人らしい自立した日常生活や社会生活が送れるよう配慮していく」ことを基本に、当事者の思いを受け止め、どうすれば実現できるのかを一緒に考えていく。センターは、地域全体の障害福祉のことを考えていく中遠地域自立支援協議会の事務局の役割も担う。支援を必要としている人たちに、切れ目、隙間のない支援が可能となるよう、関係機関と協力するとともに、老障介護の課題等が表面化している事を踏まえ、地域包括支援センター等介護保険とのネットワーク作りにも取り組んでいく。

さらに当法人グループホーム汐風では、特別支援学校卒業後に一般就労する人を受け入れ、住まいの場の提供として、現在あるグループホームのサテライト型を実施することとなった。また消防法改正に伴いあしたばでは、現在スプリンクラー設置工事を進めている。

そのほか防災対策について、南海トラフ地震等の大規模災害への対策だけでなく、近年日本各地で発生している風水害を踏まえ、平成29年6月に水防法が改正された。洪水時の避難確保について、要配慮者利用施設に避難確保計画の作成及び避難訓練実施はこれまで努力義務であったが義務化された。来年度はこのことについても、法人として取り組んでいかなければならない。

平成 29 年度 理事会

開催日	出席者数/ 理事総数	議 題
6/6	6 / 6	<ol style="list-style-type: none"> 1 平成28年度社会福祉法人福浜会事業報告及び会計決算の承認（監査報告）並びに社会福祉充実残額計算結果について 2 社会福祉法人福浜会給与規程の改定について 3 あにまあと施設整備に係る実施設計指名競争入札について 4 あにまあと施設整備のための土地購入資金借入について 5 松ぼっくり従たる事業所の建物及びあにまあと施設整備のための土地購入に伴う基本財産の追加による社会福祉法人福浜会定款変更について 6 社会福祉法人福浜会定款細則の制定について 7 運営規程の変更 8 社会福祉法人福浜会経理規程の改定について 9 松ぼっくり車両購入入札について
6/21	6 / 6	<ol style="list-style-type: none"> 1 次期理事及び監事選任の報告並びに次期理事長の選出について
6/30	6 / 6	<ol style="list-style-type: none"> 1 松ぼっくり車両購入入札結果の報告及び資金計画について 2 あにまあと施設整備に係る国庫補助内示及び外構工事等の入札並びに今後のスケジュールについて
9/4	6 / 6	<ol style="list-style-type: none"> 1 平成29年度はまぼう及びあにまあとの県実地指導の実施結果報告について 2 平成29年度社会福祉法人福浜会本部及び施設等第1次補正予算案について 3 平成29年度あにまあと施設整備外構工事の入札結果報告について 4 平成29年度あにまあと施設整備外構工事の入札結果報告並びに今後のスケジュールについて（第1回資格委員会）
10/6	6 / 6	<ol style="list-style-type: none"> 1 平成29年度社会福祉法人福浜会本部及び施設等第1次補正予算案について
11/28	6 / 6	<ol style="list-style-type: none"> 1 平成 29 年度あにまあと新築工事に係る建物入札結果報告及び契約 2 平成 29 年度あにまあと新築工事に係る福祉医療機構借入申込結果報告 3 平成 29 年度あにまあと新築工事に係る特殊浴槽等入札指名業者選定及び入札執行 4 平成 30・31 年度磐田市障害者相談支援業務及び障害者虐待防止業務委託事業者の内定 5 平成29年度社会福祉法人福浜会施設及び事業補正予算案について
H30 3/12	6 / 6	<ol style="list-style-type: none"> 1 平成29年度法人会計及び施設・事業会計補正予算案について 2 平成30年度法人及び各事業所事業計画について 3 平成30年度法人会計及び施設・事業会計当初予算案について 4 一般相談支援事業（地域移行・地域定着）の経営の追加に伴う定款の変更について 5 一般相談事業（地域移行・地域定着）指定申請について 6 生活介護事業及び共同生活援助並びにあにまあと生活介護及び障害児通所支援運営規程の変更について 7 あにまあと生活介護指定変更申請及びあにまあと障害児通所支援変更届並びに人員配置変更に伴う各運営規程変更について 8 社会福祉法人福浜会運営施行細則の改定について 9 社会福祉施設等施設整備事業の事業計画の変更について 10 あにまあと新築工事に伴うつなぎ資金について 11 あしたばスプリンクラー設置工事指名競争入札について 12 あにまあと人事について

平成29年度評議員会

開催日	出席者数/ 評議員総数	議 題
6/21	6 / 7	<ol style="list-style-type: none"> 1 新理事及び新監事の選任について 2 平成28年度社会福祉法人福浜会事業報告及び会計決算の承認（監査報告）並びに社会福祉充実残額計算結果について 3 松ぼっくり従たる事業所の建物及びあにまあと施設整備のための土地購入に伴う基本財産の追加による社会福祉法人福浜会定款変更について 4 報告事項 <ol style="list-style-type: none"> (1) 社会福祉法人福浜会定款細則の制定について (2) 社会福祉法人福浜会給与規程の改定について (3) 運営規程の変更～職員の人数の見直し (4) 社会福祉法人福浜会経理規程の改定について (5) 松ぼっくり車両購入入札について
H30 3/12	7 / 7	<ol style="list-style-type: none"> 1 平成30年度法人及び各事業所事業計画について 2 平成30年度法人会計及び施設・事業会計当初予算案について 3 一般相談支援事業（地域移行・地域定着）の経営の追加に伴う定款の変更 4 一般相談事業（地域移行・地域定着）指定申請について 5 その他 あにまあと竣工式

平成29年度はまぼう・あにまあと活動報告

1. 在籍者の状況

はまぼう 平成29年度の定員35名及び定員緩和措置を含めた月別の在籍状況

区分		月	29年	5	6	7	8	9	10	11	12	30年	2	3	合計
			4									1			
入所			0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
退所			0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2
月末	男		29	29	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	
	女		15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	
在籍	計		44	44	43	43	43	43	43	43	43	43	43	43	

あにまあと 契約者数

区分		月	29年	5	6	7	8	9	10	11	12	30年	2	3	合計
			4									1			
生活介護			5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	23
児童発達			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
放課後等			18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	

日中一時支援事業デイサービス対象者

区分		月	29年	5	6	7	8	9	10	11	12	30年	2	3	合計
			4									1			
入所			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
退所			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
月末	男		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	女		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
在籍	計		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	

2. その他の利用状況

区分		月	29年	5	6	7	8	9	10	11	12	30年	2	3	合計
			4									1			
特実 支習 等生	人員		0	0	3	1	0	0	3	0	0	0	0	0	7
	利用日数		0	0	15	5	0	0	13	0	0	0	0	0	33
実研 習修 ・生	人員		0	0	0	0	1	5	6	13	0	0	0	0	25
	利用日数		0	0	0	0	1	5	8	57	0	0	0	0	71
見 学 者	件数		1	1	0	1	4	1	1	1	0	0	0	0	10
	人員		1	3	0	2	8	3	7	8	0	0	0	0	32
ポテ ライ ンア	延人数		20	10	17	14	21	15	9	7	7	8	14	28	340
	特記					地域交流会 170									

3. 活動の状況

活動全般について

はまぼう・あにまあとでは、法人内施設間移動で1名の方の利用があった。気持ちの安定、変化等への気配り(気付き)を心掛け、楽しく、心地良く活動に参加することを目指した。一方、変化の要因を特定することが難しく、対応に苦慮しているケースもある。

はまぼうでは、いろいろなことを自分で決められるようにと、朝のミーティングでその日の活動を自分で選ぶ仕組みとなっている。寒暖の時季や仲間との関係などによって活動グループを変え利用する方もいるが、ほとんどの方が定着している。新しい方については、できるだけご本人やご家族の意向を聞き、参加グループを決定した。利用者さん理解のため一人ひとりと向き合い、仲間作りも意識しながら、作業やレクリエーション活動に参加できるように実施してきた。

重心多機能事業あにまあとでは、身体機能保持のためのふれあい体操、二人のリフレクソロジーによるリフレクソロジーのほか、リハビリ訓練等(スポーツプログラマー及び理学療法士)を実施した。今年度は、職員の配置もでき、さまざまな活動に取り組むことができた。感覚刺激であるスヌーズレンも実施した。また放課後等デイサービス事業でも、職員配置ができたことで、一人ひとりへの対応が計画通り行えた。

今年度も、全員での活動や通常のグループメンバーとは異なる複数のグループに分かれての取り組みである土曜レクリエーションやサークル活動を実施した。活動内容は後述するが、利用者さんだけでなく、ご家族にもご意見を聞いて活動内容を決めた。そのほか、施設でのグループ活動や個別体験も、利用者さんの意見や希望に沿って取組み、特に個別体験は、個別面談時にご本人・家族と相談し、その希望を個別支援計画に記載し実施するようにした。また本人会であるはまちゃん会も、クリスマス会や豆まきなどの行事を主体的に企画立案した。

健康面では、今年度も医療的なケアが必要な重症児(者)の方の長期入院や、ケア内容の変化があり、年齢が経るに従い、体調の変化のあった利用者さんが複数いた。てんかん発作、進行性の疾病、内臓疾患等で入院されるケース、退院後のストマ装着のケースもあった。健康面での配慮が増々必要になってきている。家庭との緊密な連絡はもちろんであるが、利用者さんの主治医や法人の嘱託医、協力医等との情報交換の重要性が増している。あにまあとでは、12月より協力医が月1回施設を訪問し、一人ひとりの状況を把握している。

4. グループ活動報告

らでいしゅ

グループの主な作業活動は、受注作業・縫製等の自主製品・アルミ缶リサイクル・園芸・外部作業を中心にぼぶりん工房・オズグループと2つのグループに分かれて行った。外部作業以外は所属グループにとらわれることなく、利用者さんがやってみたい作業を選び行った。

(1)ぼぶりん工房

①受注作業

〈ブリヂストン(株)〉

「LD下パック清掃作業」は、工程を2~3段階に分け、個々の利用者さんに合った工程で進めていった。「LD塗装下キャップ清掃作業」は、部品が小さく細かい作業であるが、個々の利用者さんに合わせて補助具を使用したり、工程を分けるなどして、少しずつ無理のない範囲で行ってきた。

〈大洋工業〉

シートカバー袋詰め(請負)作業を行う。初めてから3年程経ち作業にも慣れ、担当する工程にそれぞれが意欲的に取り組む様子がみられた。

②さをり織り

さをり織りは個性を大切にしている為、利用者さんが縦糸・横糸の選択、織り方まで本人に任せることでオリジナルの作品を作ることが出来た。織りあがった布は縫製作業によって製品化し、同じものがひとつと無いオリジナルのさをり織りは好評を得ている。

③縫製

さをり織りで織りあがった布の個性を生かせるように考え、携帯入れや巾着・ふくろう根付などの製品に仕上げていった。トートバック・ポーチなどの製品については、ボランティアさんの協力も頂いた。

また、作る物や生地・ボタンの色を利用者さん自身に選んでもらうことで、自分で仕上げた達成感を味わうことや、製作意欲の向上にもつながった。

④クリスマスツリー

スプレーで色塗りをする担当・飾り付けの担当と利用者さんが別れ、それぞれ個性のあるツリーを楽しみながら仕上げることができた。

⑤印刷

パソコンが得意な利用者さんが年賀状作りを行った。数年間継続してやっていることで、短期間で仕上げる事が出来ている。利用者さん自身が考えながら自信をもって実施することが出来た。

(2)オズグループ

①アルミ缶リサイクル

毎週月曜日に、福田地区を中心にご協力くださる店舗や家庭を定期的に缶回収に廻り、収集したアルミ缶の缶つぶしを行った。毎週金曜日や缶が溜まった時に、業者へ缶運搬を実施。納品の際には、作業収入増につながるため、より買い取り金額の高い業者へ缶の運搬を行った。活動は、プルタブ取りと足踏み式及び卓上式缶つぶし機を使う二種類の作業工程に分けた。缶つぶしは、段階的に工程を分け、利用者さん一人一人に合った工程を担当し、多くの利用者さん同士で協力し合いながら、缶つぶしを行うことが出来た。

②リサイクル活動

月に一回、施設に溜まったダンボールやペットボトル、雑誌等をクリーンセンターに運び、リサイクル活動を行った。準備段階から利用者さんと一緒に行い、一体となって活動を行うことが出来た。

毎月申請に行き、市からの助成金(古紙等資源集団回収事業奨励金)を受けた。

③園芸・畑

1月～3月の間、県庁玄関等に飾る30鉢のプランター作りをメインとして実施。グリーンバンクで頂いた種を蒔き、苗を育てた。県庁への納品・回収は、今年度も利用者さんと出掛け、通常とは違う活動で楽しみながらの納品であった。

野菜作りはボランティアさん主体で、さつま芋・玉葱を作り、収穫は利用者さんが中心となって行うようにした。採れた野菜等は、バザー等で販売を行った。

(4)外部作業

①コーケン工業

磐田市竜洋にある工場に通い、部品の組み立て作業(部品にゴムリング・銅リングをはめる作業)を行っている。仕事にも慣れ、作業内容もほぼ固定されているので、仕事のスピードも上がり、分量も増えてきている。新しい部品も増え、難しい工程もあるが、一人一人が責任を持ちながら作業に取り組むことができている。

②於保老健施設・さくらの苑

(於保老健施設) : 毎週火曜日にベットメイキングを行った。それぞれが協力し合いながら、仕事に取り組んでおり、スムーズにシーツ交換が出来た。

(さくらの苑) : 毎週水曜日にベットメイキングを行った。作業にも慣れ、スムーズにシーツ交換出来るようになった。困る事や分からないことには、しっかりと聞きに行くことが出来ていた。

(5)販売

出来上がった製品・野菜等は、地域のバザー、アプレゲール、お茶の山大園で販売した。地域との関わりを深めるためにも作品展覧会などに積極的に出展することで、意欲的に製品作りができた。地域のバザーでは、さをり織りの携帯・スマートフォン入れは好評だった。野菜等も地域のバザー等で好評であった。

その他の活動について

(1)グループ活動

＜朝・帰りのミーティング＞

- ・ 進行は曜日ごとに当番を決め、利用者さんが主体となり、やる気をもって行えた。
- ・ ミーティング後にラジオ体操を実施し、体を軽く動かすことで作業活動にスムーズに移ることが出来た。

＜グループ活動＞

5月にぽぷりん工房はバラの丘公園（島田市）へ、6月にオズグループは22世紀の丘公園へ行く、どちらもお弁当を食べながらのんびりと過ごし、園内を見学して楽しむことが出来た。3月には、オズグループはうなぎパイファクトリーと堀出前中央公園へ、ぽぷりん工房は3グループに分かれてレストランで昼食を食べ、資生堂アートハウスや掛川ステンドグラス美術館、うなぎパイファクトリーを見学し、少人数で落ち着いて過ごすことが出来た。いずれもいつもと違う活動に満足できた様子だった。

宿泊体験は4グループに分かれ、それぞれの希望にあわせ、活動することが出来た。

(2)個別活動

スポーツ体験や料理作りなどの生活体験を含めた活動を少人数で個々の希望に合わせて、相談しながら実施した。それぞれの利用者さんが体を動かしたり、日頃出来ない生活体験をする事が出来た。（希望者のみ実施 実施状況 表1）

(3)個別体験

事前にアンケートをとり、個別面談時にご本人やご家族の希望を聞きながら、体験したいことや外出先を決めて実施した。それぞれに楽しめた内容となった。（希望者のみ実施・実費徴収実施状況 表2）

表 1. 個別活動

実施日	内 容 (行き先)	参加人数
6月16日(金)	料理作り (牛丼・サラダ・デザート)	利 4名 職 1名
8月22日(火)	プール (竜洋B&G)	利 3名 職 2名
8月29日(火)	マレットゴルフ (御前崎市)	利 2名 職 2名
10月 5日(木)	ゆっくり散歩 (遠州灘海浜公園)	利 2名 職 2名
10月12日(木)	ウォーキング (竜洋海洋公園)	利 3名 職 2名
11月15日(水)	プール (磐南温水プール)	利 1名 職 1名
11月17日(金)	お菓子作り (クレープ)	利 3名 職 1名
12月 6日(水)	散歩 (飯田公園)	利 1名 職 1名
12月15日(金)	料理作り (豆腐ハンバーグ・牛乳寒)	利 2名 職 1名
1月19日(金)	料理作り (お好み焼き・杏仁豆腐)	利 4名 職 1名
2月 1日(木)	プール (磐南温水プール)	利 1名 職 1名
2月21日(水)	ボウリング (袋井グランドボウル)	利 4名 職 2名
3月19日(月)	ウォーキング (竜洋海洋公園)	利 2名 職 1名 示 1名

表 2. 個別体験

実施日	内 容 (行き先)	参加人数
5月26日(水)	のんほいパーク (豊橋市)	利 3名 職 2名
7月26日(水)	ランチ&買い物 (キャナリーロウ&TSUTAYA)	利 1名 職 1名
11月 9日(木)	浜名湖ガーデンパーク	利 4名 職 3名
11月10日(金)	フルーツパーク (浜松市)	利 1名 職 2名
11月13日(月)	カラオケ (まねきねこ:磐田市)	利 2名 職 2名
11月28日(火)	名古屋港水族館	利 2名 職 2名
12月 7日(木)	ランチ (食楽工房:浜松市)	利 2名 職 2名
12月22日(金)	中国料理ランチ&買い物 (浜松グランドホテル「朱茂林」・遠鉄百貨店)	利 3名 職 2名
2月 2日(金)	遠鉄バンビツアー (ミステリーツアー)	利 4名 職 2名
2月 9日(金)	ランチ&カラオケ (さわやか&まねきねこ:磐田市)	利 3名 職 2名
2月16日(金)	電車に乗って!!ランチ&買い物 (遠鉄百貨店)	利 2名 職 2名
3月 5日(月)	回転ずし&カラオケ (スシロー&joyjoy:磐田市)	利 2名 職 1名

カラーズ

利用者数 12名（生活介護利用者11名、日中一時1名）

【医療的ケアのある方の現状】 <5名>

	口腔 吸引	鼻腔 吸引	気管 切開	吸引 (気切部)	経鼻 経管栄養	経管栄養 (胃瘻)	経管栄養 (腸瘻)	呼吸器 管理	酸素 管理	インシュ リン注射
A	○	○				○				
B	○		○	○		○		○	○	
C	○		○	○					○	
D					○					
E	○						○			○
合計	4	1	2	2	1	2	1	1	2	1

[1]活動のまとめ

感覚・色彩等を感じる事の出来る作業を多く取り入れながら、体調に留意しつつ無理のない範囲でグループの皆が協力し合える活動を行った。

[2]主な作業内容 ～ 紙工芸・クッキー作り

①紙工芸

色彩を感じる事の出来る作業を行うために折り染めを取り入れ、それをノート・鉛筆の製品にし、紙すきで作った葉とセットで販売。その他、利用者さんの連絡帳・B5版ノートやメモ帳を販売した。

折り染めは個々の自由な感性で染めるため個性的な製品が出来上がった。ノート・鉛筆の糊付け作業は、利用者さんが一人で行うのは難しく、大半の人が介助や確認を必要としていた。

紙工芸製品はバザー等で幅広い年齢層の方に購入してもらう事が出来た。

②クッキー作り

利用者さんを中心にそれぞれ自分の出来る工程を担当し、バザー等での販売を中心に行った。利用者さんの活動ペースに合わせる事が難しく忙しい時期もあったが、利用者さんにとっては無理なく活動することができた。

a. 生地作り工程

バター・砂糖の攪拌、鶏卵の攪拌、生地を練る作業を行う。バター・砂糖の攪拌と生地を練る作業は、材料をビニール袋に入れることで、その感触を楽しみながら作業することが出来た。

b. 型抜き・成型・焼く工程

成型は生地をラップに包みテーブルの上や手のひらで平らにするが、程よい厚みで出来るようになった。型抜きを自分の仕事として前向きに取り組む利用者さんの姿もみられたが、厚みにばらつきもあり注意を促しながら進めた。

c. 袋準備・袋詰め工程

シール貼り、クッキー・乾燥剤の袋詰め、袋綴じを流れ作業で行った。袋詰めは補助具を、袋綴じはシーラーを使用して、職員と一緒にいった。袋綴じは職員の声掛けで確実に行うことが出来た。

透明な袋に飾りリボンは見た目にも良く好評であった。飾りリボンを作る作業ができる利用者さんがいて、仕事の幅が広がり喜びとなった様である。

[3]その他の活動

①朝・帰りのミーティング

毎日、利用者さんが交代で司会をして進行。出欠席の確認やその日の活動内容の確認をし、その日の反省・感想等を話してもらった。一日の活動を自分の意思で選択できる利用者さんが増えた。

②散歩・外気浴

出来るだけ外の空気に触れられるよう、体調に注意しながらはまぼう周辺の散歩・玄関前での外気浴を行った。散歩は全員が一緒に出掛けることは難しく、短時間の交代でおこなった。また長い時間外気にあたりと疲れてしまう利用者さんも居たため、散歩を短い距離で済ませ室内で休憩する事もあった。

③足浴

冬季は車椅子利用者さんを中心に、足浴（場合によっては手浴）を多目に行い、体を温めると共に全身の緊張を和らげる様にした。他グループからの希望者もあり、リラックスした時間を過ごすことが出来た。

④レクリエーション

利用者さんから自分のやりたいものを聞き、職員が出した複数の選択肢の中から利用者さんが選んで行った。普段体を動かす機会が少ない人たちが多いため、ペットボトルボウリングやトランプ・百人一首（坊主めくり）・すごろくゲームなど室内でも楽しめることを行った。音声を楽しむCD紙芝居も内容を毎回利用者さんに選んでもらい、リラックスした時間を過ごしながらか楽しむことが出来た。

⑤外出・外食・納涼会

ボランティアさんの協力を得ながら行なった。

納涼会はグループの恒例行事となっている。夕食のカレー作りや花火など夜までの活動であるが、事故もなく皆楽しそうに参加出来ていた。納涼会の延長を利用し、2名の宿泊を実施した（はまぼうにて）。

実施日	内容（行き先）
6月 9日（金）	磐田市文化振興センター
8月11日（金）～12日（土）	納涼会・宿泊
3月13日（火）	お楽しみ会（コーラス）

⑥個別体験

実施日	内 容（行き先）	参加人数
11月16日（木）	エスパルスドリームプラザ（静岡市）	利 2名 職 2名
12月 5日（火）	ラグーナテンボス（愛知県蒲郡市）	利 2名 職 2名
3月 5日（月）	花鳥園（掛川市）	利 1名 職 2名

⑦ふれあい体操

毎週月曜日、スポーツプログラマーによる柔軟体操やマッサージ・触感覚運動・関節運動を行い、心身の緊張をほぐしリラクゼーションを促した。月に3日程度（月・木）、理学療法士の方にも参加していただき、利用者さん個々の障がい程度に合わせた体操の仕方や注意点等を職員は教えてもらい対応した。

⑧リフレクソロジー

毎週1回、1回に3人（一人約30分）リフレクソロジストによる足裏マッサージ（施術前には足浴を実施して足を温めておく）を受け、リラックスした時間を過ごす事ができた。足裏刺激が良い効果となっている。

⑨食 事

個々に食べやすい形を探り、刻み食（みじん切り・小口切り・一口大）やミキサー食の対応をした。

5. 土曜日レクリエーション

土曜日の通所日を利用して、レクリエーション的活動を、年間5回行った。

身体を動かしたり、文化的な活動など、参加者全員で一緒に楽しめる企画が多く、利用者さんの笑顔や笑い声が印象的であった。

日 付	内 容
7 / 15	カラオケ
8 / 5	水遊び
8 / 19	流しそうめん
11 / 18	ボッチャ大会
12 / 16	クリスマスの飾り作り

6. サークル活動

第3火曜日の午後の活動時間を利用してサークル活動を行った。野外活動を中心とした「あおぞらサークル」、室内遊びを中心とした「あそびサークル」、文化的・芸術的な活動に触れ合う「ピカソサークル」の3サークルから希望をとり、1年間それぞれのサークルで企画・実施した。楽しんで参加している様子が伺えた。

実施内容

	あおぞら サークル	あそび サークルA	あそび サークルB	ピカソ サークル
5 / 3 0	計画（農村公園）	計画	計画	計画
6 / 2 0	諸井里山公園	折り紙&カラオケ	お菓子作り	絵を描こう
7 / 1 1	エコパ	水あそび	スヌーズレン	お茶会
9 / 1 2	アピタ（ドライブ）	ボッチャ	ボウリング	貼り絵
10 / 1 7	エコパ	風船バレー	お菓子作り	作品作り
11 / 2 1	安久路公園（サッカー）	秋のスイーツ作り	装飾作り	歌・音楽鑑賞会
12 / 2 2	はまぼう公園	お菓子作り	スヌーズレン	ミサンガ作り

1 / 1 6	ゆめりあ	凧作り	正月遊び	発泡スチロール でお寿司作り
2 / 2 0	諸井里山公園	凧上げ	ボッチャ	消しゴムはんこ
3 / 1 3	ドライブ/兎山公園	楽器あそび	反省会・お茶会	反省会

7. 行事・バザー報告

はまぼう・あにまあと 平成29年度年間行事・バザー表

月	行事等	担当	参加者		バザー等	担当	参加者	
			はまべ会	ボラ			利用者	はまべ会
4	年度始めの会(3)							
5	大掃除(13)	環境美化委員会	○		ヤマハジャンボリー(28)		○	○
6					磐田北高校文化祭(3)		○	呼びかけ
7	開所記念の会(3) 地域交流会バザー値付け(14) 地域交流会前日準備(21) 地域交流会(22)	実行委員会	○ ○ ○					
8								
9	バーベキュー会(16)		○	○				
10	地域清掃	環境美化委員会						
11	大掃除(25)	環境美化委員会	○ ○		光の子まつり(18) 浅羽夢広場 ふくてふれあいまつり(19)		○ ○	○ ○
12	ふれあい作品展(2~8) ヤマハ労連観劇(14)		○		ぬくまるマーケット(10)			
1	新年会・成人を祝う会(9) 個別面談	各G						
2	個別面談	各G						
3	年度納めの会(8) 個別面談	各G						
《備考》			《毎日販売》					
・ グループ活動…外出・外食・料理作り・スポーツ等実施。			・ アプレ・ゲール					
・ 個別体験…個人の希望に沿って時期・場所等を設定。			・ お茶の山大園					
・ 土曜レク(開所日に実施)。			《その他販売》					
・ サークル活動 毎月第3火曜日			・ はまぼう販売					
・ 個別面談は…1~3月に実施。								
★ 地域交流会実行委員			◎曾我拓、酒井、鈴木絢、間淵					

8. ともしびコンサート

音楽活動をしているNPO法人に依頼し、月1回、季節感のある音楽(歌)や楽器に親しむ機会を設け、室内コンサートを開催していただいた。童謡からクラシックまで幅広い音楽に触れられる機会、参加者は演奏を聴いたり皆で歌ったり、楽しく過ごすことができた。

9. 環境美化委員会

- 大掃除前後等、必要に応じて委員会を開き、情報の共有を図ることが出来た。日頃の環境美化については、職員一人一人が意識して取り組めるよう、委員を中心に呼びかけをした。毎日の清掃については、職員一人一人が美化につとめ、協力しながら行う事が出来ていた。
- 大掃除については、年度始めにアンケートをとり、希望日に合わせ参加の呼びかけをした。

家庭へのお知らせや準備、事前に担当場所等を知らせたことで、戸惑う事なく進めて行くことができた。

今年度は、夏季・冬季大掃除を土曜日にする事で、多くの保護者さんに協力をしてもらい、実施することが出来た。

- (3) ゴミの分別については、適宜注意喚起することで意識して行うことができた。
大掃除前にクリーンボックスを設置することで、大きなゴミを処理することができた。

10. 安全委員会

(1)利用者の方の安全確保

- ・ 委員会内での話し合い、事故防止・再発防止策検証チェックを行い、事故防止に努めるよう情報収集、安全管理体制の見直しを行った。
- ・ 「事故報告書」「ヒヤリハット報告書」の集計・活用。

(2)防災

- ・ 避難訓練を毎月1回、避難訓練計画に合わせて実施。
- ・ 法人全体で防災内部研修の実施や緊急時安否確認名簿作成・配布を行った。
- ・ H23年度より、各施設・事業所の防火管理者による防災担当者会議を開催し、大規模災害時の対応等について協議を継続している。

(3)施設設備（環境）の保全管理

- ・ 設備自主検査を9月、3月に実施。
不具合箇所 … 詳細については、建物・設備等点検結果表ファイル参照。

(4)安全運転管理

- ・ 春、秋の安全運転管理協会の街頭指導に参加。

(5)緊急事態への対応

- ・ 緊急事態（車両等の事故）に対しては、各職員がマニュアルに従い、速やかに対応出来ていた。
- ・ 今後も、マニュアルの検討を重ね、分かり易く対応しやすいものにしていく。

11. 生活・保健衛生委員会

(1)健康診断及び記録について

健康診断は春と秋に、レントゲン撮影は4月に実施した。検尿・検便は随時はまぼうで行い、保菌検査は職員・クッキー作業に関わる利用者さん・食事介助に関わるボランティアさんにも毎月実施した。

血圧については、健診当日は慌しさの影響を受け正しい数値が測定できない場合もあるため日を改め測定した。

健康診断の結果については、嘱託医に確認して頂き各家庭への報告をした。必要に応じて家庭への電話連絡も行った。（通院については家庭にお任せした。）

記録については、個人表、一覧表、嘱託医訪問記録、検査結果等、随時記入するようにした。

服薬はグループ単位で把握し、服薬ミスが無いように管理した。処方箋は昼食以外の物も提出して頂き、万が一の時に把握できるようにした。

(2)体重測定について

毎月月初めに実施した。結果は、体重表（カード）に記入し、家庭に確認して頂いた。測定の結果を健康チェックの目安とし、食事量を加減したり通院時に持参する家庭もあった。

(3)機関誌について

年に4回法人全体で保健だよりを作成・発行し、それぞれの季節に必要なこと呼びかけた。

(4)衛生面について

身だしなみについては、連絡帳等で家庭と連絡をとり対応している。徹底されつつあるが、改善の必要な人がいるので、引き続き本人や家庭に働きかけをしていく。

ハンカチ所持を呼びかけていることで個人での所持率は高まっているが、今後も声掛けが必要だった。トイレでのスリッパへの履き替えが定着していない人もいるので、今後も対策が必要だった。

寝具については布団、毛布の天日干しを隔月で実施した。

(5)病気予防について

食中毒や風邪・インフルエンザの予防のため外から帰った時や、食事の前にうがい・手洗いの声掛け・マスク着用を促した。そのため職員が率先して行なう姿勢が多くみられた。

ノロウィルスに関して汚物処理のための消毒薬(次亜塩素酸泡タイプ)の留置、週一回施設内の消毒薬での拭き掃除を徹底した。

部屋の換気や加湿器の使用を心がけ衛生面に注意した。

感染症についての職員会議にて伝え、施設内での感染予防を促した。

(6)防虫防鼠について

環境美化委員会にて大掃除やバルサン実施。

(7)日用品・医薬品について

トイレットペーパーやボックスティッシュ等、在庫確認の上、随時発注するようにした。医薬品については、使用期限の確認と在庫チェックの上、必要に応じて発注・補充した。

個人で昼に服薬がある利用者さんについては、服用の確認と声掛けを行った。

(8)着替えについて

最近では、利用者さん一人ひとりが自分の着替えを持ってきているため、ほとんど貸し出すことはなかった。

(9)歯磨き・うがいについて

各自で食後の歯磨きやうがいを行っていたが、必要な利用者さんに対しては全面介助や仕上げ磨きを行った。うがいも上手に出来るように促したが、うがいが難しい利用者さんに対しては、お茶や水を飲むことで口腔内の清潔に努めた。

(10)歯科検診について

訪問歯科による歯科検診を全利用者さん対象に実施した。

12. 人権擁護・虐待防止委員会

利用者さんの人権を擁護し、虐待を未然に防止するために、管理者を責任者とし、虐待防止の組織（人権擁護・虐待防止委員会）を設置。今年度も研修担当者との協力をし、合同研修会にて利用者さんの人権擁護や虐待防止について職員への周知を図った。また、虐待防止チェックリストは、10月と3月(半期に一度)に実施し、職員一人ひとりが自己意識を高められるようにした。

会議では、合同研修会での内容についての話し合いを行った。利用者さんの安心、安全と人権擁護の観点から、適正な支援が提供され、利用者さんの自己実現と社会参加のための支援を妨げることのないよう、定期的にまたは適宜、委員会を開催し、虐待の防止に努めていくことを確認した。

また、利用者さんの呼称(呼び方)を「さん付け」に徹底できるよう、全職員に呼び掛けを行っている。今後も研修会、会議の中で職員の意識の向上を図るとともに、苦情解決担当者や安全委員会、研修担当者等と連携しながら具体的な活動を計画し、組織として質の高い支援を提供できるよう努めていく。

13. はまちゃん会（利用者本人会の代表者会）

主に土曜日の通所日を利用して10回開催し、意見交換会など利用者さん主体で意見や要望を出し合った。恒例となったはまちゃん会主催のクリスマス会スムーズも企画・実施する事ができ、利用者さんの自信や楽しみにつながった。また、今年度は恒例となっていた豆まき会を止め、皆が楽しめる会を企画したいと提案があり、ボウリング大会を企画・実施した。

第1回 5/6(土)	年間計画	第6回 1/6(土)	クリスマス会の反省会
第2回 7/1(土)	意見交換会	第7回 1/13(木)	皆で楽しめる会計画①
第3回 10/28(土)	クリスマス会計画①	第8回 2/27(土)	皆で楽しめる会計画②
第4回 12/2(土)	クリスマス会計画②	第9回 2/10(土)	ボウリング大会 (皆で楽しめる会)
第5回 12/21(木)	クリスマス会	第10回 3/24(土)	ボウリング大会の反省 今年度の反省

14. 内部研修

水曜日午後の時間を利用し、年間計画に従い研修担当者で起案を立て研修会を実施した。

平成29年度は、法人全体研修5回、施設内部研修2回実施した。地域生活支援・放課後等デイサービスとの兼ね合いもあり、職員全員参加は難しかったが、第5回合同研修会については土曜開所日の就業時間後に行ったため、多くの職員が出席できた。(内容については下記参照。)

また、内部での出張報告については、今年度は実施することができたものの、支援等があり参加人数は少なかった。出張で学んだ内容を職員間で共有できるよう、来年度は日程、内容等の工夫をし、定期的な開催を通して職員の意欲向上に努めていきたい。

日付	内容	担当者
6/7	結・GH・地域生活支援事業の事業報告 理事長の話 (合同研修会)	研修担当
9/6	緊急時安否確認顔合わせ、危険予知トレーニング 理事長の話 (合同研修会)	防災担当 研修担当
10/25	出張報告会 理事長の話 (内部研修会)	研修担当
11/1	感染症について、仕事の基本(職業人としてのマナー) 理事長の話 (合同研修会)	生活保健委員会 研修担当
11/8	出張報告会 理事長の話 (内部研修会)	研修担当
1/31	不審者対応マニュアルについて 仕事の基本(人権を守るということ) 理事長の話 (合同研修会)	安全委員会 研修担当
3/24	人権擁護・虐待防止委員会より 理事長の話(テーマ別にグループワーク) (合同研修会)	人権擁護・虐待防止委員会 研修担当

15. 相談・福田チーム検討会・地域包括ケア会議

施設等での外来相談については、サービス管理責任者、相談支援専門員・リーダー・地域生活

支援担当者を中心に、磐田市、袋井市等の委託相談事業所などの関係機関と連携をとりながら実施している。内容は、通所に関する相談、学齢児の長期休暇時や放課後の支援の相談、進路相談、在宅児（者）への支援等。法人内のサービスに直結するものでないケースは、地域療育支援センター事業として実施しているケースもある。特に就学前の重心児への支援は、家族支援も兼ねて家庭訪問をするなどの対応もしている。

また福田地区在宅者のケース検討会（福田チーム検討会）や地域包括ケア会議、磐田市相談連絡会に参加。地区内の各機関が一致した認識をもつことができ、協力して地域生活支援を行っていく土台作りの場となっている。

16. 中遠地域自立支援協議会及び中東遠圏域自立支援協議会

中遠地域自立支援協議会は、磐田市及び袋井市が地域生活支援事業実施要綱（厚生労働省通知）に基づき、障害福祉に関するシステムづくり（相談支援事業等）のため、関係機関の連携強化、社会資源の開発・改善等を推進する目的で設置し、幹事会、代表者会、作業部会（専門部会）をもって構成されている。この参加者については、今年度も法人全体で担当職員を決めて出席。

「相談支援連絡会」や作業部会（精神部会、知的・身体部会）及び「こども部会」「就労部会」「地域生活支援部会」「重心在宅支援部会」「防災部会」の各専門部会、そして地域生活支援部会の中の「グループホーム」「ショートステイ」「自閉症等在宅支援部会」の課題別検討会に参加。

この内、「相談支援連絡会」「重心在宅支援部会」「防災部会」「地域生活支援部会」とその中の課題検討会である「グループホーム」「自閉症等在宅支援部会」については、今年度も福浜会が担当した。

17. 重症心身障害児（者）の在宅支援に関する会議

中東遠圏域自立支援協議会重心部会としての活動が主となり、中遠地域自立支援協議会重心部会としての活動は殆どなかった。そこでは支援者同士のつながりを深める「支援者連絡会」を年に2回開催。はまぼう・あにまあと事務局として参加。また平成30年度に予定している「わくわく」と「検討会（研修）」の準備委員会及びコア会議にも事務局として参加。

1月には、静岡県が主催する医療を中心とした多職種連携研修にも協力・参加した。

その他関係機関との連携や県主催の会議、研修については下記のとおり実施、参加した。

① 特別支援学校等の教育現場の見学、手をつなぐ育成会や肢体不自由児者父母の会等の家族や本人が参加する団体の総会及び活動への参加。

② 重症心身障害のある人の在宅支援に関する会議及び研修に参加

静岡県主催： 「重症心身障害児（者）在宅支援推進連絡調整会議及び作業部会」

「重心看護従事者・介護従事者養成研修」

「重心ケアマネジメント従事者養成研修」

ゆうあいのさと「県西部子どもの在宅支援ネットワーク協議会」

平成29年度あにまあと活動報告

生活介護

利用者 現在契約者 5名
 <車椅子 5名 うち全面介助者 5名>

	口腔吸引	鼻腔吸引	気管切開	吸引 (気切部)	ネブライザー 吸入	経鼻 経管栄養	中心静脈 栄養	酸素管理
A	○	○				○		
B			○		○	○		
C	○		○	○		○		○
D	○	○				○	○	
合計	3	2	2	1	1	4	1	1

[1]活動のまとめ

感覚・色彩等を感じる事の出来る作業を多く取り入れながら、体調に留意しつつ皆で協力し合い活動を行った。

[2]主な作業内容 ～ 紙工芸・粘土細工（小麦粉粘土）・クッキー作り

①紙工芸

色彩を感じる事の出来る作業を行うために折り染めを取り入れ、それをノート・鉛筆の製品にし、紙すきで作った栞とセットで販売。その他、利用者さんの連絡帳・B5版ノートやメモ帳を販売した。

折り染めは個々の自由な感性で染めるため個性的な製品が出来上がった。ノート・鉛筆の糊付け作業は、一人で行うのは難しく職員の介助や確認を必要としていた。

紙工芸製品はバザー等で幅広い年齢層の方に購入してもらう事が出来た。

②クッキー作り

利用者さんを中心にそれぞれ自分の出来る工程を担当し、バザー等での販売を中心に行った。利用者さんの活動ペースに合わせる事が難しく忙しい時期もあったが、利用者さんにとっては無理なく活動することができた。

a. 生地作り工程

バター・砂糖の攪拌、鶏卵の攪拌、生地を練る作業を行う。バター・砂糖の攪拌と生地を練る作業は、材料をビニール袋に入れることで、その感触を楽しみながら作業することが出来た。

b. 型抜き・成型・焼く工程

成型は主に利用者さんが行った。生地をラップに包みテーブルの上や手のひらで平にするが、程よい厚みで出来る様になった。型抜きを自分の仕事として前向きに取り組む利用者さんの姿もみられたが、厚みにばらつきもあり注意を促しながら進めた。

c. 袋準備・袋詰め工程

シール貼り、クッキー・乾燥剤の袋詰め、袋綴じを流れ作業で行った。袋詰めは補助具を、袋綴じはシーラーを使用して、利用者さんを中心に職員と一緒にを行った。袋綴じは職員の声掛けで確実にを行うことが出来た。

透明な袋に飾りリボンは見たいにも良く好評であった。

[3]その他の活動

①朝・帰りのミーティング

毎日、利用者さんが交代で司会をして進行。出欠席の確認やその日の活動内容の確認をし、その日の反省・感想等を話してもらった。一日の活動を自分の意思で選択できる利用者さんが増えた。

②散歩・外気浴

出来るだけ外の空気に触れられるよう、体調に注意しながらはまぼう周辺の散歩・玄関前での外気浴を行った。散歩は全員が一緒に出掛けることは難しく、短時間の交代でおこなった。また長い時間外気にあたりと疲れてしまう利用者さんも居たため、散歩を短い距離で済ませ室内で待っている事もあった。又、歩ける利用者さんが車椅子を押すなど、他グループの利用者さんとの関わりもあり仲間意識の向上が見られた。

③足浴

冬季は足浴（場合によっては手浴）を多目に行い、体を温めると共に全身の緊張を和らげる様にした。他グループからの希望者もあり、リラックスした時間を過ごすことが出来た。

④レクリエーション

利用者さんから自分のやりたいものを聞き、職員が出した複数の選択肢の中から利用者さんが選んで行った。普段体を動かす機会が少ない人たちが多いため、ペットボトルボウリングやトランプ・百人一首（坊主めくり）・すごろくゲームなど室内でも楽しめることを行った。音声を楽しむCD紙芝居も内容を毎回利用者さんに選んでもらい、リラックスした時間を過ごしながらか楽しむことが出来た。

⑤外出・外食・納涼会

ボランティアさんの協力を得ながら行なった。

納涼会はグループの恒例行事となっている。夕食のカレー作りや花火など夜までの活動であるが、事故もなく皆楽しそうに参加出来ていた。

実施日	内容（行き先）
6月 9日（金）	磐田市文化振興センター
8月 11日（金）	納涼会
3月 13日（火）	お楽しみ会（コーラス）

⑥個別体験

実施日	内容（行き先）	参加人数
5月 26日（金）	ばらの丘公園（島田市）	㊦ 2名 ㊧ 2名
3月 15日（木）	今之浦公園（磐田市）	㊦ 1名 ㊧ 2名

⑦ふれあい体操

毎週月曜日、スポーツプログラマーによる柔軟体操やマッサージ・触感覚運動・関節運動を行い、心身の緊張をほぐしリラクゼーションを促した。月に3回程度（月曜日・木曜日）理学療法士の方にも参加していただき、利用者さん個々の障がい程度に合わせた体操の仕方や注意点等を職員は教えてもらい対応した。

⑧リフレクソロジー

毎週1回、1回に3人（一人約30分）リフレクソロジストによる足裏マッサージ（施術前には足浴を実施して足を温めておく）を受け、リラックスした時間を過ごす事ができた。足裏刺激が良い効果となっている。

⑨食 事

個々に食べやすい形を探り、刻み食（みじん切り・小口切り・一口大）やミキサー食の対応をした。

放課後等デイサービス

利用者 現在契約者 18名

【医療的なケアのある児童】

	口腔吸引	鼻腔吸引	気管切開	吸引 (気切部)	経管栄養 (胃瘻)	腹膜透析
A						○
B	○	○			○	
C	○	○			○	
D			○	○	○	
E					○	
F			○	○		
G	○	○	○	○	○	
H	○	○			○	
合計	4	4	3	3	6	1

[1]主な活動内容

(1)コミュニケーション支援

①音楽遊び

子ども達が好む音楽（アニメソング、童謡等）を中心に、音楽鑑賞を行った。リズムに合わせて、手拍子をしたり、身体を揺らしたりする姿が見られた。今後は、興味の幅をひろげられるように、様々な音楽を取り入れていく。

②感覚遊び

積み木や形合わせの玩具を使い、微細運動を行った。継続して行うことで、バランス・形をスムーズに認識できるようになってきた。

バランスボールを使っの、身体全体を動かす遊びを行った。不安定な体勢になることに慣れず、苦手な子どももいた。興味の示し具合を見ながら、今後も誘い掛けを継続していく。

③読本

色彩豊かな本、ストーリーの分かり易い本を中心に、読み聞かせを行った。

外出が可能な時には、市立図書館に出掛けて、普段なかなか読むことのできない本に触れる機会を設けることができた。

(2)社会化

①統合保育

友達と同じ時間を過ごすことで、自分の気持ち（嬉しいこと、嫌なことなど）を言葉だけではなく、仕草や表情によって伝えられるようになってきた子どももいる。今後は、子ども達が気持ちを表出しやすいよう、職員が感じ取れるよう活動をしていく。

②外出

散歩（外気浴を含め）は積極的に行うことができた。天気や体調を考慮して、時間等は無理なく行えた。

多人数での外出や、社会体験としての外出は実施することができなかった。

(3) 身体機能向上

ふれあい体操やリフレクソロジーにおいては、普段なかなか動かすことのない関節や、足裏のマッサージを受けることで、良い刺激になっています。

スヌーズレンにおいては、五感を刺激しながらも、リラックスできる環境を作り、普段過敏に反応してしまっている感覚を休ませられるように促しました。

[2] その他

体調管理

医療ケアの必要な子どもが多く、体調を崩しやすいことも多いため、家庭と連絡を密に取りながら、体調管理には気を付けた。

欠席時には、様子伺いを行った。

児童発達支援

利用者 現在契約者 0名

[1] 活動のまとめ

今年度の契約者、利用者ともになし。医療的ケアのある児の利用ニーズが高まっているため、今後の看護職員等の勤務体制の整備や療育内容、支援方法の確立が必要になると思われる。

平成29年度そるとぼっと活動報告

1. 在籍者の状況

平成29年度の定員20名及び定員緩和措置を含めた月別の在籍状況は次の通り

区分	月	29年										30年			合計
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
入所		1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
退所		0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	
月末 在籍	男	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19		
	女	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2	2	2		
	計	22	22	22	22	22	22	22	22	22	21	21	21		

【在籍者障害支援区分】 区分6→3名、区分5→12名、区分4→5名、区分3→1名(年度末時点)

日中一時支援事業デイサービス対象者

区分	月	29年										30年			合計
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
入所		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
退所		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
月末 在籍	男	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1			
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
	計	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1			

2. その他の利用状況

項目	月	29年										30年			合計
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
特実 支習 等生	延人員	0	0	0	0	0	0	3	3	0	0	0	0	6	
	利用日数	0	0	0	0	0	0	3	3	0	0	0	0	6	
実研 習修 生	延人員	0	6	8	2	2	0	5	9	4	6	2	0	44	
	利用日数	0	3	4	1	1	0	1	3	2	3	1	0	19	
見学 者	件数	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	
	人員	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	
ボテ ライ ンア	延人数	0	0	0	1	0	0	0	1	6	0	0	3	11	
	特記									クリスマス会					

3. 活動の状況

特別支援学校の卒業生1名が新たに入り22名+地域支援1名でスタート。翌年1月に1名の利用者さんがご家族の事情により他の事業所を利用するようになった為、年度末には21名+地域支援1名となった。年間の平均利用者数は19.2人で多くの利用を頂いた。グループ編成は3グループで活動を進めたが、各グループ毎に活動内容や場所を工夫し、状況によってはグループ間を超えて協力体制をとった。新しい利用者さんも次第に環境に馴染み、そるとぽっと全体も比較的落ち着いて過ごすことが出来た。

作業活動ではポスティングや空き缶つぶし等外での活動も取り入れ、利用者さんの希望する(得意とする)作業を行った。自主製品作りでは、エコビーズを使用して髪飾り等新しい作品に取り組んだ。その他の活動として外出や散歩、体育館で身体を動かすこと、音楽鑑賞、料理作り、また宿泊体験や個別体験、水泳、ボーリング、カラオケ等を実施した。ハロウィンやランチビュッフェ体験等ご家族に呼びかけて利用者さんと一緒に活動に参加して頂くこともできた。

〔作業活動について〕

① シートカバーセット (大洋工業)

引きはがす、丸める、たたむ、チャックの空け閉め、袋に入れる等の工程があり、分担することで多くの利用者さんが取り組むことが出来た。

② LDキャップ(ブリヂストン)

得意な利用者さんを中心に取り組むことが出来た。

③ 割箸袋入れ (藤本商会)

紙のさやに割箸を入れる、ビニール袋に入れる、爪楊枝を入れる、ビニール袋を閉じる、おしぼりをポケットに差しこむ、という工程をそれぞれ分担して行い、安定した状況で進めることが出来た。

④ ポスティング(アドポスティング)

2ヶ月に1～2回、歩いてチラシを決められたポストに入れる。配布エリアを追加したが、比較的安全なエリアなので利用者さんが交代で参加できた。

⑤ キャンドル作り(自主製品)

材料のロウを砕いたり、砕いたロウを型に入れる工程に関わり、手作りのキャンドルを作ったが、なかなか新たな作品にはつながらなかった。

⑥ ポストカード作り(自主製品)

パソコンのペイント機能を使って描いたり、手描きの作品をスキャンして新たなカードを作成できた。

⑦ ハンガーモップ作り(自主製品)

ワイヤーハンガーに短く切った毛糸をくくりつけ、カラフルで表情豊かな「ハンガーモップ」を作成した。

⑧ エコビーズアクセサリ作り(自主製品)

利用者さんが色付けしたペットボトルを、オーブンで焼いてビーズを作り、ストラップやブレスレットに加え、バレッタやヘアピンを作成した。

⑨ お茶注文販売

新茶、水出し煎茶、年末年始のシーズンに注文販売を行った。

〔その他の活動について〕

① 施設行事

- ・ 宿泊体験 (6/23～24、7/7～8、8/25～26、9/8～9、9/22～23)

希望者19名がそるとぽっとに宿泊、5グループに分かれ、大衆浴場に出かけたりファミリーレストランで好きなメニューを食べたりして楽しく過ごした。

・流しそうめん (9/16)

家族と一緒に、駐車場で流しそうめんを行った。樋を長く連結して順番を待たずに楽しむことが出来た。利用者さん16名と家族16名が参加。

・ファミリーウォーキング (11/25)

ご家族と一緒に竜洋海洋公園にて実施。利用者さん15名とご家族14名に加えボランティア1名が参加。

・ヤマハ労連チャリティー公演 (12/14)

劇団四季「嵐の中の子どもたち」にご招待いただく。今年度も本物のミュージカルを楽しむことができた。利用者さん13名と付添のご家族7名が参加。

・クリスマス会 (12/16)

クリスマス会を楽しんだ後、グループ毎に分かれボランティアさん6名と一緒にケーキをデコレーションして一緒にいただく。利用者さん17名、ボランティアさん6名が参加。

・新年・成人を祝う会 (1/6)

新年をお祝いして皆で挨拶をして、後半はグループに分かれ初詣に出かける。利用者さん18名が参加。

・豆まき

全体で豆まきを楽しむことが難しいので、今年度は行事としての豆まきはやめ各グループ毎に実施した。

② 個別体験

利用者さんの希望に沿って一緒に楽しめる内容を計画し、少人数で出かけた。

10/5	浜松城散策&ランチバイキング(浜松市)	2名参加 (付添2名)
10/24	ぷるる&夢庵(掛川市)	2名参加 (付添2名)
11/7	日本平ロープウェイ&動物園(静岡市)	2名参加 (付添2名)
11/22	路面電車でプチツアー(豊橋市)	3名参加 (付添2名)
12/5	入浴施設「風と月」&ランチ(浜松市)	2名参加 (付添2名)
12/7	アサヒビール工場見学(名古屋市)	2名参加 (付添2名)
12/8	フルーツパークイルミネーション(浜松市)	4名参加 (付添3名)

③ 料理作り

レクリエーションやグループ活動等の中で、スパゲティ、パンケーキ、ケーキ、フルーツゼリー、クレープ、クッキー、かき氷等を作って食べた。

④ スポーツ・文化活動

利用者さんの希望を確認し、水泳(7名)、ボーリング4名)、カラオケ(8名)をそれぞれ小グループで楽しんだ。

⑤ その他の余暇活動

こけしの顔付けや絵馬作り、季節合わせた壁面装飾と一緒に製作して施設内に掲示した。磐田市ふれあい作品展に個人と共同製作で参加。体力作りも兼ねて外出やウォーキングを実施したり、定期的に近くの体育館で身体を動かした。はまぼうで行われる「ともしびコンサート」に希望者が参加した。

⑥ 避難訓練

毎月、地震または火災を想定して避難訓練を実施、11月には総合防災訓練を行う。今年度は事前予告をしないで実施、消防署への通報訓練も取り入れて行った。

4. グループ活動報告

せさみグループ (男性7名、女性2名)

年度途中に職員の入れ替わったことや、みんなとグループとの関わり方が変わったこともあり、特に上半 期落ち着かない雰囲気が続き利用者さんにご迷惑をかけしてしまいました。

そんな中、利用者さん一人ひとりの思いに添えるよう意向を確認しながら、趣味の時間などをつくり活動したが、なかなか全てがとはいかず、まだまだコミュニケーションに課題が残った。

① 作業活動

ブリヂストンの仕事が、昨年からの予定どおり無くなってしまった。そのため、昨年度から 取り入れたシートカバーセットの仕事にシフトしている。工程が複数あることから、全員参加で取り組むことができている。なお、シートカバーについては、在庫過剰により材料の未入荷があり、クリップセットの数合わせを取り入れた。また、できる人は限られてしまったが、自主製品作成（ハンガーモップ・ポストカード）を行った。案外と自助具を活用するとスムーズに取り組むことができた。ポスティングも実施、散歩もかねて行った。また、年末にはカレンダーの包装の仕事が高単価で入ってきた。委託品なので来年度もできるかは未定。

利用者さんによっては、運搬といった動きのある作業の方が向いている人もいるので、作業の一環として取り入れた。(例えば、月曜日、水曜日、木曜日とそれぞれ決められた日に出せるよう、ゴミの取りまとめとゴミ捨て場までの運搬、書類の配達と空き缶の積み込みと運搬、その他納品など)

② その他の活動

月曜日、時々火曜日の午後に外出、木曜日の午前には体育館で体を動かす活動、火曜日と木曜日は、希望を募り活動を実施。作業活動中にも少人数での散歩に出掛けた。また、外出方法や内容として、マイクロバスで移動し、地域の公園での昼食、希望によりザリガニ釣り、凧揚げを実施した。週末に次週の計画を立てるミーティング⁶をとりいれ楽しみにつなげた。

③ グループ活動

10月にハロウィンパーティー、12月に民生委員さんの協力のもとクリスマス会を行った。年末にお楽しみ会、1月に初詣、2月に豆まき等も実施した。ご家族と一緒に参加できたこともあり、それぞれに余暇活動を楽しむ姿が見られた。また、季節に合わせておかしづくりを行った。

ばせりグループ (男性8名)

今年度は、新しい利用者さん1名を迎えグループ編成を見直した。学校から全く違う環境での生活となり混乱したことで不安定な時期があったものの、次第に穏やかに過ごせるようになっていった。

環境の変化に伴う戸惑いや不安を上手く伝えることが苦手なために、様々な行動（自傷や他害行為・こだわりなど）となって現れてしまう人が多いため訴えを受け止め聴く態度、応える姿勢で接するよう努めている。職員とのおしゃべりが増えたり、からかって面白がっている場面があったりと、安心できる関係づくりができてきたように感じる。イラついて怒る場面が減り、穏やかに過ごすことができた。

日中活動は作業を中心とし、午前中は作業、午後は曜日毎に日課を決め作業や外出、自由時間とした。拘りが強く変更が苦手な利用者さんが多いことから、混乱や不安を避けるように出来るだけ日課の変更は少なくし、朝の会で確認するようにしているが、次第に変更も受け入れられ、「待つ」こともできるようになってきたと感じる。互いの行動で影響し合い不安定になってしまう場合には、作業場所を変更する等の方法もとった。人との関わりを大切にしながら安心できる場でありたい。

① 作業活動

主な作業として割り箸、ブリヂストンのLDキャップ分離作業、シートカバー作業、ポスティングを行った。作業場所や作業工程の工夫などで安定してできるよう配慮した。

外部作業としてベッドメイキングにも1名の利用者さんが継続して参加している。見通しがもて達成感を感じて終了できるよう各人に合った作業量を設定したり、運動や気分転換も兼ねてポスティングに行ったりなど、目的をもった作業を心掛けている。

② その他の活動

週2回、午後に外出し散歩等で身体を動かす時間をつくった。

ともしびコンサートには、希望者が参加した。

磐田市作品展には、はり絵や文字、イラストなど各人が得意な方法で職員と一緒に制作し出品した。

流しそうめんやクリスマス会など大勢が集まる場所が苦手な利用者さんも少しずつ参加できるようになった。

③ グループ活動

新年会として、ご家族参加で1月24日（水）にランチバイキングに行った。

みんとグループ（男性4名、女性1名）

作業棟は少人数で静かな環境で活動できる場所として編成した。2名の利用者さんが休みがちなため常時3名での活動が多かった。その内の1名が家庭の事情から1月いっぱい退所となってしまった。

今年度からは、ぱせりグループと同じ日課とし、職員も協力しあいながら進めてきた。少人数なため細かな対応ができる半面、静かで刺激が少なく物足りなさを感じてしまうこともあったので、活動内容によっては他のグループの行事に参加した。

① 作業活動

主な作業として割り箸、シートカバー作業を行った。

気持ちの安定を第一に考え作業活動はその手段であるため、作業量や作業時間はそれぞれの体調にあわせている。

② その他の活動

週2回午後外出し散歩等で体を動かす時間をつくった。

ともしびコンサートには、希望者が参加した。

流しそうめんやクリスマス会など大勢が集まる場所が苦手な利用者さんも少しずつ参加できるようになった。

③ グループ活動

忘年会として12月にラーメンを食べに行った。事前の連絡なしで当日伝えたが戸惑うことなく実施でき安心した。

5. 委員会活動

① 保健委員会

家庭やグループホームと連絡を取りながら、利用者さんの日々の体調を見守った。体調を崩して欠席した場合には、電話で様子伺いをしたり、状況によっては自宅訪問をしたりした。

毎月一回、体重測定を実施し体重の変化を把握した。

健康診断の日程は利用者さんに配慮して、はまぼうと松ぼっくりに分けて出向き、採血やレントゲン検査を行った。

今年度も歯科検診を実施し、全員の利用者さんが参加した。

年4回保健便りを発行し、流行性疾患への注意の呼びかけや対処方法を伝えた。

今年度は、インフルエンザによる欠席者はいなかった。

感染症対策として、インフルエンザ流行期間は利用者さん帰宅後毎日室内や送迎車内の消毒を行った。

②環境委員会

ご家族に協力いただき、6月と12月の2回大掃除とワックスがけを行った。また、6月にはバルサン散布をし、害虫駆除を行った。

春から秋にかけて、活動の中で施設周辺の草取りを行ったり、職員が駐車場や裏の河川敷の草刈りを定期的に行った。

ごみの分別は、週に3日それぞれのごみの回収日に合わせ、また古紙やペットボトルについては活動中に利用者さんと一緒に運搬して処分した。ゴミの分別については確認しながら意識を高めて行った。

ごみのない綺麗な状態を維持できるよう、毎日活動終了後に部屋とトイレの掃除を行った。水曜の午後には保健委員会とも協力して、感染予防のためモップがけと手すり・机・椅子等利用者さんが手に触れそうなところの消毒を行った。

③安全委員会

今年度も、事故報告の提出があった。事故による怪我也発生してしまい、注意力の低下が目立った。特に転落事故と怪我については、一瞬の見落としと、通常の流れという過信の中から生じてしまったことであった。

いずれのことも予測して行動すれば防げた事故が大半を占めてしまった。特に、利用者さんの怪我については、当事者職員もふくめ、全体での把握が必要であった。壁の破損についても同一利用者さんによるものなので、その時々状況を把握し共有することで気を引き締めていきたい。原因と対策をしっかりと確認し今後に生かしていきたい。

昨年に続き、定期的に避難訓練と総合防災訓練(11月)を実施した。利用者さん達も慣れてきたこともあり、円滑に進められ、担架による移動と発電機の取り扱いなど避難以外の準備物とうの取り扱いまで全員に周知することができた。防災担当者会議を開催し、継続して防災対策に取り組んだ。

10月と3月には設備自主検査を実施した。

〔ヒヤリハット〕 2件 内訳： 転倒(2)

〔事故〕 4件 内訳： 壁破損(2)、怪我(1)、転落(1)

6. 地域社会との関係

広報活動として、「ふくはまの風」を法人施設と協力して発行した。

バザー等に参加することで、自主製品の販売を通じて地元の方と触れ合う機会を設けたり、外出先や近隣を散策して地域の方との挨拶を積極的に行なった。

磐田市東地区の民生委員・児童委員さんをはじめボランティアさんの受け入れや、磐田北高等学校の介護実習や城山中学校と福田中学校の福祉体験の生徒さんを受け入れ、利用者さんとの関わっていただくことで相互に理解を深めるよい機会になった。

法人内の各事業所、ご家族と協力して「地域交流会」に参加した。地元の方や大勢のボランティアさんのご協力をいただき、音楽や模擬店を中心とした楽しいイベントに参加できた。

7. 家庭との関係

連絡ノートに施設と家庭の様子を記入して日々の情報交換を行った。必要に応じて電話連絡や自宅を訪問し様子伺いをした。個別支援計画作成時には全ての家庭と面談を実施し、また個々に家庭からの相談を受け面談を実施した。

地域交流会(7月)、流しそうめん(9月)、ファミリーウォーキング(11月)、大掃除(6月と12月)、活動参観・懇談会(1月)を家族参加で実施した。また、グループ活動でもご家族に参加を呼びかけ、ハロウィンパーティーやランチビュッフェ等を行った。家族参加の行事等は好評で喜んでいただいた。

8. 苦情解決体制

苦情の受付と「こんな一言聞きました報告書」の提出は無かった。

9. 内部研修

今年度も職員の専門知識の獲得と技術の研鑽はとても大切なことであり、法人内職員合同研修については他施設担当者と連携をとり、臨時開催も含め年5回実施した。各施設の研修担当者による合同会議を定期的に行い、合同研修会のあり方や自己評価等について積極的に検討を重ねた。また、職員会議の中で文献等の読み合せや出張報告を行った。

施設内では、利用者さんの歯磨きの研修が出来ないか歯科衛生士の先生に相談したところ、不定期ではあるがボランティアで来て頂き、一人一人の磨き方の指導を受けることが出来る運びとなった。都合により今年度は1回（一人の利用者さん）の実施だったが、具体的な方法を指導いただき、負担の軽減と他の利用者さんへの応用を身に着けることができた。来年度も継続の予定。

日付	内部研修内容	担当者
4/5	新任職員合同研修	各管理者
5/11	研修担当者合同会議	研修担当
5/24	ケース検討	研修担当
6/7	<第1回合同研修会> ①結・地域療育、地域生活支援事業報告、 ②グループホーム事業報告、 ③理事長講話	研修担当 若林敦子 鈴木良和 高橋和己
7/26	ケース検討	研修担当
8/18	研修担当者合同会議	研修担当
8/29	権利擁護虐待防止委員会	担当委員
8/30	ケース検討	研修担当
9/6	<第2回合同研修会> ①防災について「地区別顔合わせ」 ②危険予知トレーニング（グループワーク） ③理事長講話	研修担当 防災担当 安全担当 高橋和己
9/20	ケース検討	研修担当
10/5	研修担当者合同会議	研修担当
10/18	ケース検討	研修担当
10/19	研修担当者合同会議	研修担当
10/24	権利擁護虐待防止委員会	担当委員
11/1	<第3回合同研修会> ①感染症について ②仕事の基本について ③理事長講話	保健・研修担当 高橋和己
11/28	研修担当者合同会議	研修担当
12/8	権利擁護虐待防止委員会	担当委員
12/20	ケース検討	研修担当
1/19	権利擁護虐待防止委員会	担当委員

1/31	<第4回合同研修会> ①不審者対策について ②仕事の基本について ③理事長講話	研修担当 高橋和己
2/21	ケース検討	研修担当
2/22	歯磨き指導	研修担当 小宮山ひろみ
3/6	研修担当者合同会議	研修担当
3/24	<第5回合同研修会> ①権利擁護・虐待防止について ②理事長講話 ③来年度の研修内容についてアンケート	担当委員会 高橋和己 研修担当

10. 地域生活支援

地域生活支援事業、ライフサポート事業、福祉有償運送を利用して、施設利用時間前後の送迎やサービス終了後の延長時間や休日に支援を行った。そるとぼつとの利用者さんの利用も前年度に比べ確実に増えている。

11. 相談業務・福田地区チーム検討会参加

各相談事業所や市町の担当者と連携を図りながら、利用者さんのご家族や地域の方から相談を受け付けた。内容は、家庭環境の変化に伴う在宅生活を支えるための各支援について、特別支援学校卒業後の進路等について相談があった。

また、福田地区在住のケースについては、各関係機関によるチーム検討会に参加し、引き続き地域生活支援のケース検討を重ねた。

12. 中遠地域自立支援協議会(磐田市、袋井市)

取りまとめ会、進路部会及び中東遠圏域自立支援協議会運営会議に出席した。また担当事業所として「自閉症等在宅支援検討会」を松ぼっくり、緑ヶ丘学園の各担当者と共に進めた。その中で「地域生活支援部会」と協力して関係事業所の施設長、袋井特別支援学校、行政を交えての検討会を開催し、行動障害の強い自閉症の人が利用できる事業所が不足しているという地域の課題を再確認した。

平成 29 年度松ぼっくり活動報告

1. 在籍者の状況

平成29年度の定員40名及び定員緩和措置を含めた月別の在籍状況

区分	月	29年												30年			合 計
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3				
入 所		2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2		
退 所		0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	2			
月末 在籍	男	35	35	35	35	35	34	34	34	34	33	33	33				
	女	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10				
	計	45	45	45	45	45	44	44	44	44	43	43	43				

日中一時支援事業デイサービス対象者

区分	月	29年												30年			合 計
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3				
入 所		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
退 所		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
月末 在籍	男	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2				
	女	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1				
	計	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3				

2. その他の利用状況

項目	月	29年												30年			合 計
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3				
特実 支習 等生	人員	0	0	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	3			
	利用日数	0	0	6	0	0	0	3	0	0	0	0	0	9			
実研 習修 ・生	人員	0	0	0	1	1	0	5	7	0	0	0	0	14			
	利用日数	0	0	0	12	12	0	3	21	0	0	0	0	48			
見 学 者	件 数	0	0	1	1	1	0	2	1	0	0	0	0	6			
	人 員	0	0	2	1	1	0	8	1	0	0	0	0	13			
ボテ ライ ンア	延人数	12	12	12	14	10	8	11	8	7	9	7	10	120			
	特 記																

3. 活動の状況

今年度も、Wish、スマイル、ビジョン、樹の4グループでの活動を基本に、グループ間で協力して、職員が行き来するなど臨機応変な対応が必要な年となった。又、利用者さんのみならず、その家族が高齢で本人への関わりがしんどくなるなどの家庭も見受けられた。結果的に、本人が高齢者福祉に関わる事業所への移行をせざるを得ない状況となったケースもあった。

今年度は、このような高齢者福祉に関わる事業所との連携や65歳を境とする様々な課題も見え隠れする年となった。来年度はさらに、障害福祉と高齢者福祉との接点であり、新たに創設された「共生型サービス」も視野に入れた展開も生まれてくるのではないかと思われる。

又、今年度は松ぼっくり本体施設に1名、スマイルグループに1名、新たな利用者さんを迎えて活動を行った。その結果、スマイルグループについては当初2階のみ使用していたが、利用者さん同士の関係に配慮し1階も利用する機会が増えている状況である。

仕事については、引き続き(有)フスマ商会、コーケン工業(株)といった企業内での仕事、さくらの苑、於保老健センターでのベッドメイキングの仕事、そのみ園でのしいたけ収穫、公園清掃といった外部作業に取り組んだ。又、グループごとに請負の仕事やリサイクルの仕事を行った。

午前は作業活動を行い、午後は散歩やレクリエーションを行う点は、今年度も同様であった。そのほか、今年度もグループ活動や個別の活動を実施した。

4. グループ活動報告

Wish

心地よい雰囲気を作り、利用者さん一人一人が自分の思いを伝えやすい環境を整えてきた。また、その中でいろいろな人と触れ合う機会を持ちながら、お互いの思いを伝え合う関係も大切にしてきた。それぞれが自分らしく、楽しみながら活動できることを目指してきた。

①作業

本人が気持ち良く、仕事に取り組みやすいような環境を整えてきた。また、本人のペースやその日の様子に合わせ、作業内容なども工夫してきた。

地域の方やご家族の方から協力を頂きながら行っているアルミ缶のリサイクル作業では、長年の実績が認められ、アルミ缶リサイクル協会より表彰を受けた。

- アルミ缶/回収・缶つぶし・運搬(三光)
- 自主製品作り(連絡ノート・手提げ袋)
- しいたけ作業及び販売/週1回 4~6月、9月(森町 そのみ園)
- ふすま梱包材組立て作業/週1~5回((有)静岡フスマ商会)
- お茶の委託販売(恵松学園)
- リングはめ(コーケン工業)

②午後の活動

午後の活動は健康作りとリフレッシュすることを大切にしてきた。地域の公園や施設に出掛けて散歩したり、遊具などで遊んだりして身体を動かしてきた。また、外出を通じ、地域の方と触れ合う機会に多く巡り会うこともできた。他にも桜を観に出掛けるなど、季節を感じながら、楽しむ機会も取り入れてきた。

③その他の活動

季節の行事・宿泊体験などでは、皆で行き先、行き方、夕食等の意見を出し合う中、計画を立てた。一人一人がそれぞれの楽しみを持ちながら参加でき、楽しい思い出を作ることができた。

個別外出では、他グループの利用者さんや職員と一緒に出かける機会を多く取り入れることで、交流を深めることができ、新しい事にもチャレンジしながら、楽しむことができた。

【グループ活動】

活動の種類	内 容
グループ外出	マクドナルド、エコパ散策
宿泊体験	ココス磐田店、竜洋海洋公園オートキャンプ場、コテージ利用、しおさい竜洋入浴
クリスマス会	ジョイフル豊田町店
初詣	小国神社にて参拝、かつ平にて食事
年度納めの会	1年間の振り返り アクティ森（森のレストランかわせみ） 外食 グランドゴルフ

【個別外出】

行 き 先	内 容
浜松フルーツパーク時之栖	いちご狩り、乗り物、買い物と散策
竹島水族館、蒲郡	水族館見学と外食
ホテルウエルシーズン浜名湖・浜名湖 パルパル・浜名湖 SA	ランチバイキング、乗り物、買い物
浜松フルーツパーク時之栖	JR線と天浜線で行く外食と外出散策
日本平動物園	電車とバスを使った外出、外食

スマイル

利用者さんひとりひとりにとって1日の見通しが立ちやすいカリキュラムを組むことで、安心して活動に参加できるように環境を整えた。

① 作 業

利用者さんひとりひとりに合わせて作業を組み合わせていった。また、集中して作業を行える環境を整えていく中で利用者さんのエンパワーメントを高めていけるよう配慮した。様々な作業に取り組む中で個々のスキルアップ、能力の高さを改めて実感できた。

- ブリヂストン（LD塗装下キャップ清掃作業、LD下パック清掃作業）
- コーケン工業（リングはめ）
- 大洋工業（保護カバーの袋詰め）
- 缶回収（3箇所）、缶つぶし

②午後の活動

午後は、「外出」を基本とし、ひとりひとりがリフレッシュできるよう心がけた。季節を感じながら身体を動かす良い機会となった。選択する経験、そして楽しみになるようにと外出先の自動販売機でジュース、アイスを購入する機会を作り、利用者さんの楽しみに繋がった。

週1回、「内職の日」を設定。作業後に室内でDVD鑑賞する等し、リラックスできる時間となった。

③その他の活動

○ グループ外出・活動

季節に合わせて外出先を選び計画・実施した。グループ活動としては、月2回おやつをもって公園へ出掛けた。（地域内の店でおやつ、大判焼き等を購入）

利用者さんが楽しめるような活動を来年度も計画していきたい。（お菓子作りなど）

時期	内 容		
6月	ガーデンパーク散策	1月	初詣（小国神社） &弁当（ほっともっと）
8月	ミニパフェ作り、プチ納涼会（焼きそば作り）	2月	おしるこ作り
12月	クリスマスケーキ作り	3月	浜岡原子力館&外食（五味ハ珍）

○個別外出

年に1回、希望者対象で実施した。各利用者さんが楽しめるような場所や内容を計画したことで、普段とはまた違う素の表情を見せ、リラックスできる時間となったと思われる。

時 期	行 き 先	内 容
11月	ならここの湯 &しばちゃんランチマーケット	入浴及び散策と外食
3月	日本平動物園	園内散策
3月	お花見（かわせみ公園） &食事（マクドナルド）	お花見、散策と外食

○宿泊体験（10/6～10/7）

松ぼっくりの施設を利用して実施。宿泊ということで落ち着かない一面も見られたが、普段の活動では見られない笑顔が見られ良い体験となった。カレー作りも行ない食事も楽しめた。地域の入浴施設（しおさい竜洋）を利用し入浴を楽しめた。

ビジョン

①作 業

【内職、仕事について】

- ・堀住加工（袋入れ、ホチキス止め作業）
- ・コーケン工業（リングはめの仕事）
- ・静岡フスマ商会（梱包用のダンボール作り）
- ・さくらの苑、於保老健センター（ベッドメイキングの仕事）
- ・缶回収
- ・公園清掃（ふるさと公園）

※作業後の時間に軽体操やストレッチをしたり、ゆっくりと新聞を読んだりできるような、リラックスする時間を設けるように心掛けました。

②午後の活動について

午前に引き続き内職など仕事をする人もあれば、公園で身体を動かしたり、図書館でゆっくりと音楽を聴いたり、新聞を読んだりして、リフレッシュする人もありました。室内活動もカラオケで歌ったり、卓球やキャッチボールで身体を動かしたり、かるたやジェンガなどのゲームを楽しみました。また、パソコンを利用して、個別外出の予定を立てたり、外出先のことを調べたりもしました。

活動内容について皆と相談し、お互いに気持ちに折り合いをつけながら、楽しく活動に参加できるように工夫してきました。

③その他の活動について

利用者さんの思いを大切にしながら下記のように行事を行ってきました。

- ・個別外出 ... 個々の希望に沿って年1回実施しました。
- ・グループ外出 ... 季節ごとの活動として、いくつかのグループに分かれて実施しました。
- ・宿泊体験 ... 9/1～2、9/8～9の2回に分かれて実施しました。

利用者さんたちが楽しみにしている年間行事のひとつになっています。日課を終えて、ななつぼしやリフレUで入浴を済ませてから、参加している皆さんの希望にそって外食をしました。夜は、仲間同士でおしゃべりをしながらお酒を飲んだり、テレビを見て楽しみました。また、職員とじっくり話をしている姿もありました。

- ・季節の行事・・・七夕飾り作り、クリスマスの昼食会、節分豆まき、ハロウィン、初詣
年度納めの会（トラックラーメンによる出前）
- ・おやつ作り・・・オムレット、ゼリージュース

【グループ活動】

活動の種類	内 容
グループ外出	見付元町珈琲、コートダジュールなどで軽食喫茶、カラオケ
宿泊体験	松ぼっくりを利用して宿泊、入浴（しおさい竜洋、ななつぼし、リフレU）、外食、花火、お酒を楽しむなど
グループ外出	プール外出（竜洋B&G）
グループ外出	プール外出（御前崎市民プールすいすいパークぷるる）
クリスマス会	飾りつけから買い物、準備、食事～チキン、ケーキ他
初詣（お参りと外食）	小國神社、五社神社、スタミナ太郎、掛川さわやか他
年度納めの会	「トラックラーメン」の出前で食事しながら楽しむ。

【個別外出】

行 き 先	内 容
浜松エアパーク	施設見学と買い物、外食
ららぽーと磐田	映画鑑賞（名探偵コナン）・食事・買い物
日本平動物園	園内散策と外食
ヤマハスタジアム	サッカー観戦と買い物・食事
イオンモール浜松志都呂	食事・買い物
あらたまの湯、毎日ボウルくら寿司	入浴、ボウリング、外食

樹 G

新しい利用者さんも増え、新しい環境になったが、環境が変化する事を楽しむ事が出来るように、仲間づくりに務めてきた。気持ちが安らぎ、落ち着いた場所が保てるよう心掛け、その中で、「思い」を大切に認めあう関係作りをしてきた。

作業面では、朝の会等で自ら取り組む作業を選び、目標を持ち取り組んできた。目標を持つことで、自分自身に責任のような部分が芽生えてきたような感じがする。

活動面も、朝の会等で話し合い活動する事を決めた。楽しめる事を中心にリフレッシュする時間を大切にした。散歩・卓球などの簡単なスポーツも楽しく参加できるような工夫をしてきた。身体的な事も考え、仕事前に簡単なヨガも取り入れ、生活のリズムになってきている。また、全員・小人数で活動する事を交互に行う事で、他の利用者さんに合わせる力を持つことが出来、自分の気持ちを言い合える関係作りが出来るように努めてきた。

①作業

落ち着いて気持ちよく作業に取り組めるよう、環境を整え、作業への意識、意欲が継続的に持てるようにした。

- ・(株)コーケン工業（リングはめ作業）
- ・千栄加工（クリップ・カード入れ）
- ・堀住加工（袋入れ）
- ・公園清掃（ふるさと公園）
- ・(有)静岡ふすま商会（ふすまの組み立て・出荷用の箱・出荷時の衝撃緩和材作り）
- ・自主製品（曼荼羅アートのメモ帳・ノート、ポチ袋、縫製品等）
- ・しいたけ作業

②その他の活動

<午後の活動>

意見を出し合い、午後の活動は選び決めていった。また、利用者さんとの話し合いで、昨年から取り入れている樹ピック(オリンピックにちなんで)を行い、新しく卓球・競争などを取り入れ楽しみながら身体を動かしていった。

また、ハロウィーンも仮装したり、クリスマス会・豆まき等は、利用者さんと一緒に準備をして楽しんだ。年度末に「トラックラーメン」の出前を楽しんだ。

(内容：ドライブ、買い物、散歩、カラオケ、DVD鑑賞、おやつ作り、パソコン音楽鑑賞、w i iスポーツ、サッカー、風船バレー、卓球、リレー競争
ペットボトルボーリング)

<グループ外出>

利用者さんが意見を出し合い、計画を進めていった。

*毎週月曜日はグループ全体での活動を心掛けた。(樹リンピック・散歩等)

<グループ活動>

活動の種類	内 容
クリスマス会（12月）	準備の段階から利用者さんが意見を出し合い、企画する。サンドウィッチやオードブル、ケーキを囲んで食事、その後それぞれが何かしら出し物等を披露して楽しむ。
初 詣（1月）	・五社神社、鴨江寺、イタリアンレストラン「ラフェスタ」 (行きつけのレストランでのボランティアさんと食事会も含む)
年度納めの会（3月）	利用者さん、職員がそれぞれ一年の振り返り歓談する。加えて日頃の感謝の気持ちも添えてボランティアさんとお茶会も行う。今年は、利用者さんが練習してきた手品や出し物（鍋やざるを使った音楽隊）を披露したりした。

<個別外出>

個々の希望に応じて場所等決めていった。他のグループの利用者さんと一緒に行く機会も設けた。お小遣いもある中での活動なので、また違った楽しさを味わっている様子が伺えた。

行き先	内容
法多山、ららぽーと、あかのれん	買い物と散策、外食
浜名湖パルパル、ウェルズン浜名湖、浜名湖 SA	乗り物、ランチバイキング、買物
仙の坊とコートダジュール	とろろ汁食事とカラオケ
フルーツパーク	JR線と天浜線で行く外食と外出散策
掛川花鳥園	園内散策と外食、買い物

<宿泊体験>

10月に、松ぼっくりで宿泊を行った。利用者さんが主体となって意見を出し合い内容を決めていった。恒例で、楽しみな行事でもあるのでそれぞれのペースで、無理なく過ごすことが出来ていた。食事や買い出し、お風呂、花火などの場面ごとに、それぞれの楽しみ方をして過ごしていた。

5. 音楽活動

【ともしびコンサート】

音楽活動を中心に活動しているNPO法人に依頼し、月1回、季節感のある音楽（歌）や楽器、歌のリクエストなどに親しむ機会を設け、室内コンサートを行う。「ともしびコンサート」も恒例となっており、専門家による演奏を聴いたり歌を歌ったり、皆で楽しくリフレッシュする時間となっており、参加者同士の交流もみられた。

6. 環境美化委員会

◎大掃除・・・年2回に分け、ご家族の力を借りながら実施した。

第1回目・・・7月7日（金）、7月12日（水）

1日目・・・窓拭き外側・窓拭き内側・網戸・トイレ・草刈り・作業棟、外壁

2日目・・・部屋の掃除・部屋のWAX掛け・剪定・事務所 ※2日目は職員のみでの実施。

第2回目・・・12月8日（金）作業棟・スマイル建物

第3回目・・・3月2日（金）トイレ・窓拭き外側・内側・網戸・外壁

◎日常の掃除・・・毎日放課後にトイレ掃除・床のモップがけを行ってきた。また、毎週金曜日、午後の活動に掃除を組み入れ、利用者さんと一緒に取り組んできた。

（毎日使っている作業室や食堂・トイレ・車洗い等）

◎草刈り・草取り・・・第1回大掃除の時に建物周辺の草刈り・草取りをご家族と実施した。また、地域交流会の前にもご家族や法人内の職員に協力を仰いで実施した。

◎ゴミ出し・・・市の定める規則に従って収集日の前日にゴミの分別を行い、当日ゴミ当番が集積所へ出した。古紙・ダンボールについては、市内に設置してある古紙回収ステーションへ搬入して処分をした。

◎施設周りの美化・・・施設の周囲に燃えやすい物がないか等の見回りや落ちているゴミの処分を行った。

◎粗大ゴミの処分・・・地域交流会と大掃除の時期に合わせてコンテナを借り、施設内やハウス等の整理を通して粗大ゴミの処分を行った。

◎暑さ対策・・・作業棟周りに日よけネット等を設置して暑さ対策を行ってきた。

◎防虫対策・・・7月11日（火）の放課後、施設内及び作業棟内において一斉にバルサンを実施。

7. 安全委員会

① 活動の報告と反省

- ・ 年度内の事故は3件、ヒヤリハット報告は3件。その中で交通事故が2件あり、改めて朝のミーティングなどを通して注意を呼びかけた。又、所在不明も3件あり、内容も職員間の連携ミスや、体制面での工夫があれば防げる課題があるように感じられた。
- ・ 職員のメンタルヘルスを取り上げた内容の研修を改めて検討していきたい。
- ・ 朝のミーティングや職員会議を通して、交通事故の情報や時季ごとの運転に関する注意事項を職員に伝達、回覧をしていく中で、交通安全の意識を高める機会を設けた。

② 来年度に向けて

- ・ ヒヤリハット報告を確実に提出してもらうように力を入れていく。
- ・ 回覧の仕方など見ても情報の伝達について工夫の必要性を感じる。単に情報を広めることが必ずしもプラスに働くことばかりではないので、必要な事をしっかりと伝えていくようにできると良い。
- ・ 朝のミーティング簿が現在一番活用されているので、これを十分に活用していくことを考えていく。
- ・ 活動計画の作成、事故報告書のまとめ、建物の状況チェック、ヒヤリハットのまとめ（ミーティング簿より）を分担して実施していく。

8. 生活・保健衛生委員会

① 健康診断の実施（春）6/14

レントゲン検査、採血、保菌検査、検尿、血圧、身体測定、嘱託医による問診
健康診断（秋）11/8... 採血（春に未受診の方）、保菌検査、検尿、嘱託医による問診
歯科検診実施。（6/29）

② 記録の管理・記入・・・健康記録表、健康診断個人表、健康診断結果表、嘱託医訪問記録、投薬記録（緊急用も含む）の記入 ⇒松ぼっくり～発作の記録は、不十分だったので年度末にチェックしていきたい。また、投薬記録の変更も十分でなかった。

③ 個々人への衛生面への配慮

⇒入浴、洗髪、整容、手洗いなどをチェックし声かけや家庭への連絡等を行なった。

④ 感染症への対応

- ・ インフルエンザやノロウイルスが流行期には、手洗い・うがいの声かけ、部屋の換気の実施などを積極的に行なった。水曜日の午後の清掃終了後、次亜塩素酸ナトリウムで消毒を行ない、流行期は毎日実施した。
- ・ インフルエンザ⇒**㊦**2名がインフルエンザに感染、通所停止となった。
(**利**3名・・・家族の感染による出勤停止)
(**職**4名・・・家族の感染と本人感染による出勤停止)
- ・ 嘔吐下痢症、急性胃腸炎の感染は見られなかった。※吐物処理セットを購入し、各グループに設置するようにした。

⑤保菌検査・・・利用者さんは、健康診断時（春・秋の2回）、職員は毎月実施した。

⑥『保健だより』の発行・・・時期や状況に合わせた情報提供をした。

⑦体重測定の実施・・・毎月1回実施し、体重表を通して各家庭にお知らせした。

⑧職員研修・・・合同研修を実施し（年1回）、感染症の知識を再確認する機会を設けた。

9. 行事・バザー報告

月		行事等	担当	バザー等
4	20日	地域交流会会合		
	25日	レントゲン検診		
5	18日	はまべ会役員会・会計監査	28日	ヤマハジャンボリー
	25日	はまべ会総会		
6	14日	血液検査	2、10日	地域交流会はまべ会打合せ
	19日～	袋井特別支援学校実習		
	29日	歯科検診		
7	7日	大掃除(7/7)、浜松学院短大	22日	地域交流会バザー うなぎ、寿司販売
	22日	地域交流会 実習		
8	22日	サマーショートボランティア		
	24日	地域交流会反省会		
9	1、2日	ビジョンG 宿泊		
	8、9日	〃		
10	6日、7日	スマイルG宿泊体験		
	16日～	袋井特別支援学校実習		
	19日	城山中学校体験学習		
	27、28日	Wish宿泊体験		
	30日	静岡こども福祉専門学校実習		
11	8日	健康診断(問診等)	18日	光る子まつり
	9日	福田中学福祉体験学習	19日	ふれあいまつり
	21、22日	樹G 宿泊		
	25日	ウォーキング (浜名湖ガーデンパーク)		
12	8日	大掃除・総合防災訓練	2日～	磐田ふれあい作品展
	14日	クリスマス会(各G) ヤマハ労連観劇		
1	29日	成人を祝う会		
2		個別面談		
3	2日	大掃除・年度納めの会		
	7日	総合防災訓練		
	15日	はまべ会役員会		
	19日	はまべ会総会		
毎月1回 ともしびコンサート開催				
毎月1回 避難訓練実施				
随時 浜松学院短大(保育実習Ⅰ)、静岡こども福祉専門(相談援助実習)、磐田北高(介護実習)				
随時 袋井特別支援学校現場実習及び保護者福祉事業所体験				

10. 人権擁護・虐待防止委員会

利用者さんの人権を擁護し、虐待を未然に防止するために、管理者を責任者とし、虐待防止の組織(人権擁護・虐待防止委員会)を設置。今年度は、年4回委員会を実施した。昨年度に引き続き研修担当者と協力し、合同研修会にて利用者さんの人権擁護や虐待防止について職員への周知とともに学ぶ機会を持つとともに、日常的な自己点検をするために「虐待防止チェックリスト」を機会あるごとに実施するよう努めた。又、利用者さんの呼称の面も、朝のミーティングなどで呼びかけ、自分自身で確認するように提案した。今後については、虐待があった場合の通報マニュアルはあるが、虐待を未然に防ぐための「虐待防止マニュアル」はなく、必要性も含めて検討していくことが必要と思われた。

11. 内部研修

年間計画を基に研修担当者で企画の立案と実施を行った。主に、水曜日の午後の時間を研修活動に充て、法人全体研修を計5回にわたり実施した。

今年度は合同研修会を中心に実施し、事業所間における情報共有や意見交換を図る機会を設ける中、日頃の支援を見つめ直す機会を設けることができた。引き続き、職員の資質向上に向け、研修内容や研修方法を改めて見直し、それぞれが意欲を持ち、研修会に参加できるような内容を考えていきたい。

<活動内容>

日付	内容	担当者
6 / 7	結、地域生活支援事業、生活援助、事業報告、理事長の話（合同研修会）	各担当者 研修担当者
9 / 6	緊急時安否確認名簿について 危険予知トレーニング（KYT）（合同研修会）	防災担当者 安全委員会 研修担当者
11 / 1	感染症について 仕事の基本「職業人としての姿勢・マナー」について	生活保健委員会
1 / 31	不審者対策について 仕事の基本「人権を守るということ」 理事長の話（合同研修会）	研修担当者
3 / 24	人権擁護・虐待防止委員会より 理事長より（テーマ別グループ討議） 理事長の話	人権擁護・虐待防止委員会

12. 苦情解決体制

平成29年度としては、苦情受付として0件、こんな一言聞きました報告3件という状況であった。内容については、職員の対応に関するもの1件、施設や法人の対応に関するもの2件であった。特に「松ぼっくり」としては、送迎サービスやグループホーム他のサービスとの連絡や伝達面での確認に関するものが挙げられていた。今後の課題としたい。

13. 相談・福田チーム検討会

施設等で受ける相談については、相談支援専門員・リーダー・地域生活支援担当者を中心に、磐田市、袋井市等の委託相談事業所などの関係機関と連携をとりながら実施している。内容は、通所に関する相談・在宅者への生活支援、学齢児の長期休暇時や放課後の支援相談・進路相談等。また福田地区在宅者のケース検討会(福田チーム検討会)に年5回ほど参加。地区内の各機関が一致した認識が持てるように、協力して進めている状況である。

又、高齢者のご家族を持つ家庭での利用者支援について、地域包括支援センターなどの相談機関との連携はもちろん、障害福祉関係施設だけでなく、ふじのくに型福祉サービスをはじめとする介護保険関係事業所の利用も増えているところである。

14. 中遠地域自立支援協議会

中遠地域自立支援協議会は、磐田市及び袋井市が地域生活支援事業実施要綱(厚生労働省通知)に基づき、障害福祉に関するシステムづくり(相談支援事業等)のため、関係機関の連携強化、社会資源の開発・改善等を推進する目的で設置されている。代表者会、幹事会、個別支援会議を軸に構成されており、参加については、今年度も法人全体で担当職員を決めて、その職員を中心に必要に応じて参加した。

平成 29 年度 潮の香活動報告

1 平成 29 年度の定員（20名）の月別在籍状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入所	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
退所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
男	14	14	14	14	14	15	15	15	15	15	15	15
女	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
計	21	21	21	21	21	22	22	22	22	22	22	22

2 その他の利用状況

項目		月												合計
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
特実 支習 等生	延べ 人員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	日数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実研 習修 ・生	延べ 人員	0	6	8	2	2	8	8	2	4	6	2	0	48
	日数	0	3	4	1	1	4	4	1	2	3	1	0	24
体見 験学 ・者	人員	0	0	1	0	4	0	0	1	0	0	0	0	6
	件数	0	0	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	3
ボテ ライ ンア	延べ 人数	13	13	15	14	29	15	14	18	13	10	12	11	177

3 活動の状況

(1)仕事について

本年度も、地域に根ざした自主製品の「祭典用のき花作り」、請負の「堀住加工有限会社（ヤマハのオートバイ部品）の袋詰め・ホッチキス留め」、「ダイオ化成株式会社（網戸張替用ローラー）の袋詰め」、「有限会社マックスのダミー作業」の仕事を行ってきた。

また、地域の一員として事業所で働くことを考え、引き続き「コーケン工業（自動車部品）」と「静岡フスマ商会（段ボール組み立て等）」と「カネ長水産（しらす加工）」と「於保老健（ベッドメイキング）」へ出向を行ってきた。

《のき花製作》

今年度も福田地区祭典用のき花の、製作総本数約19,900本（寄付を含む）を利用者さん・職員及びボランティアさんの協力を得て作業を進め、無事に出荷することができた。

※本年度も竜洋地区や磐田北地区、個人等から注文を受けた。

《請負作業》

「ヤマハのオートバイ部品の袋詰め」を行ってきた。日によって量や部品の形・大きさが違っているが、そのことにも対応する能力を持ち、積極的に作業に取り組んできた。「ダイオ化成株式会社」の仕事は、網戸張替用のローラーを袋に入れてから箱詰めする作業で、以前は袋入れに主な1名だけが関わっていたが、今では取り組む方が数名まで増えた。また、ヤマハの仕事の合間を縫って行っている、電気部品のカプラへのダミー作業「有限会社マックス」は始めてから5年半が経った。小さなゴムを穴に押し入れる細かな作業だが、作業に集中できるよい仕事であり、みんなの好きな仕事でもある。

《外部作業》

地域への社会参加と就労支援の一環として、地域の事業所等に積極的に出掛けて仕事をやる機会を作ってきた。

コーケン工業(株)には現在も男女4名が出向しており、新しい作業に挑戦したり作業量を増やしたりするなど、自分の持つ力を十分作業に発揮し、充実した毎日を過ごすことができている。年に2回はリフレッシュのため1日外出する機会を作り楽しんでいる。

(有)フスマ商会とカネ長水産には男性1名ずつが出向している。すでに長く働いているため事業所との信頼関係もあり、安定して出向できている。

また、於保老健へベッドのシーツ交換作業に1名が出掛けている。前職でのシーツ交換の経験を活かし取り組むことができている。

(2)その他の活動

毎日が作業中心の生活であるため、みんなが楽しめる活動を目指し年間計画を立てて実施してきた。各種行事・外出には利用者さんの意見を取り入れながら企画し、充実した楽しい活動内容となった。

① スポーツ・散歩・レクリエーション等

朝のラジオ体操・ストレッチ体操・散歩は欠かさず毎朝励行してきた。

今年度のスポーツはグランドゴルフ大会を行った。近くの公園まで歩き、チームに分かれてスコアを競い合い楽しんだ。

土曜レクでは、ボール送りやリレーなどで体を動かした。

② 料理作り

今年度は非常食のやきとり缶詰を使って、やきとり丼・お吸い物・サラダ・カルピスゼリーを作った。それぞれができることを担当し、楽しく調理から片付けまでができた。やきとり丼は思っていたよりおいしく出来て満足できた。

③ 音楽・美術の鑑賞及び出展

美しいもの、創造的なものに触れるための美術鑑賞・音楽鑑賞会を積極的に行ってきた。美術関係では、図書館で行われた磐田市在住の作家の作品を鑑賞し、様々な技法で描かれた絵画の世界に親しむことができた。また、ふれあい作品展に4名が出展し、趣味の写真や漫画、裁縫、折り紙などを多くの方に鑑賞してもらい、喜びを感じることができた。

音楽関係では、地域交流会で間近に楽器演奏や歌を聴き、一緒に歌ったり踊ったりすることができた。また、今年度もヤマハ労連招待のチャリティー公演でミュージカルを観劇し、大いに笑ったり歌ったりと楽しむことができた。

日常的な音楽活動は、利用者さんと季節ごとに選曲した歌を、朝の会で毎日欠かさず歌ってきた。今年度は「花束を君に」「COLORS」などを歌った。声を出すことによって元気が出たり、合唱でみんなの気持ちがまとまったりする効果が期待される。また、次は「これにしよう」と自ら考える機会ともなっているため、これからも続けていきたい。

④ 野外活動（年間5回実施）

普段の利用者さんとのコミュニケーションから野外活動のヒントを得て、行き先等を決めてきた。そして、どの野外活動でも意欲的に取り組んできた。

主なものとして、お花見は、家山の桜を見に弁当を持って出掛け、SLを間近に見ながらのお花見ができた。5月にはスポーツ体験として、グランドゴルフ大会を開催した。10月のウォーキングは太田川ダムへ出掛け、ダムの迫力を感じたりダム湖を気持ちよく一周したりした。11月のミニ旅行はこれまでとは違い、2回に分かれて実施した。浜名湖館山寺でロープウェイや遊覧船に乗った。もう一班は、久能山でロープウェイに乗って東照宮を見に行った。利用者さん・職員ともに気持ちの余裕が生まれて良い旅となった。

⑤ 個別体験

今年度も、年1回の個々が希望する体験を行った。個人や少人数で出掛け、それぞれ一日を楽しく過ごすことができた。

・ 4/14 桜見物	1名参加（職員1名）
・ 6/19 浜松市動物園	4名参加（職員2名）
・ 7/11 直虎館	4名参加（職員2名）
・ 8/1 カラオケ	1名参加（職員1名）
・ 8/3 買い物	2名参加（職員1名）
・ 9/14 富士川楽座観覧車	5名参加（職員2名）
・ 9/26 エスパルスドリームプラザ	2名参加（職員1名）
・ 4/12 映画鑑賞	1名参加（職員1名）

⑥ BDショッピング（パースデーショッピング）

利用者さんの誕生日に、朝の会等でお祝いの言葉をかけたり、買い物に出掛け決められた金額（500円）の中で好きなものを購入したり、楽しく実施できた。（例：お菓子、日用品、CD、雑貨など）

⑦ 地域清掃

散歩をしながらゴミを拾う活動を行った。少しでも地域のために役に立つこと、また、きれいな心を育むためにと、「ひろ道ウォーク」を月に1回のペースで続けてきた。（冬期12月～3月は休止した）

今年度は、普段の散歩でよく歩く潮の香周辺地区を主に行ってきたが、加えて「はまばう公園」や「福田公園」にも足を伸ばしゴミ拾いを行った。安全や熱中症等に十分配慮しながら、地域との繋がりを大切にするために、これからも続けていきたい。

⑧ イオン幸せの黄色いレシートキャンペーン（マックスバリュ福田店投函分）

活動ではないが、今年も皆様の温かなご協力により、今回は27,100円の助成をいただいた。助成金はイオンギフトカードとして寄贈された後、お菓子や日用品などに替え、皆さんへお渡しすることができた。ご協力くださった皆様には心から感謝いたします。

⑨ その他の活動

今年度も納涼祭を開いた。本所作業室でかき氷、ポップコーン、お好み焼きなどを食べて楽しんだ。また、今年度もかもめへの寄付をいただいた。そのはがきで、日頃お世話になっているボランティアさんや保護者の方、外部作業先の事業所さんなどに暑中見舞いを書く機会を作った。字を書く機会を時々作ることによって、持っている能力を低下させないようにしてきた。創作活動としては、磐田北高生の介護実習でちぎり絵をしたり、紙飛行機を飛ばして競い合ったりして楽しんだ。創る喜びもたくさん得ることができた。

(3)食事等について

- ・ 歯が弱い方、呑み込みが難しい方には、食べやすい大きさに刻む支援を行った。
- ・ 健康に配慮しなければいけない方については、給食の油物を少し減らしたり、ソース・醤油をかける量を調節したりする支援を行った。
- ・ 食事後、食堂の床の雑巾がけを利用者さん全員の当番制で行ってきた。進んで取り組める利用者さんが多くなった。

(4)健康管理及び安全

利用者さん一人ひとりの健康を維持し、体力の向上を図るために、次のような支援をしてきた。

- ・ 日常生活の衛生面においては、手洗い、うがい、歯磨き等の励行を強力に進めてきた。ドアノブや手すりなど頻繁に触れる場所は、週1回の消毒を行ってきた。特に感染症が流行る時期には頻繁に行ってきた。
- ・ 朝のラジオ体操・ストレッチ運動・散歩は毎日欠かさず実行できた。ストレッチは利用者さんが先生になってもらい、意識を高めてもらった。
- ・ 心の悩みを訴える利用者さんには定期的に話を聞いたり、表情や身体の変化が見られる利用者さんには職員から積極的に話し掛けたりして、その対応を図った。心の病については、主治医との連携や職員による傾聴など、必要に応じて対応を考えてきたが、本心を聴き出すことや実際の状態を知ることの難しさは依然残った。
- ・ 通所のための自転車利用者に対しては、帰りの会等で毎日のように交通安全注意を呼びかけてきた。交通事故などの事例はなかった。
- ・ 地震（津波）及び火災を想定した避難訓練を本所と作業棟で毎月交互に実施し、安全で迅速な避難ができるようさまざまな場面での「予告なしの訓練」を行ってきた。

11月6日は、磐田市消防署の協力を得て総合防災訓練を実施した。本所と作業棟それぞれで、地震により津波が発生した場合の車両での避難訓練を行った。また、職員による通報訓練、全員で煙の中の避難訓練及び消火器の取扱いと消火方法を指導いただき、火災への対応を学ぶことができた。

(5)委員会活動

利用者さんの生活・健康管理並びに安全・環境整備等について委員会を設け、時には松ぼっくりと協力しながら協議や活動を行ってきた。

① 生活・保健衛生委員会

- ・健康診断の実施（6月14日、11月8日）

レントゲン、採血、嘱託医による問診、保菌検査（年2回）

身体測定（身長・体重）・検尿と血圧（潮の香で実施）、体重については毎月実施し、連絡帳の身体測定表に記入し家庭にお知らせした。

- ・個人の衛生面への配慮

入浴、洗顔、洗髪、整容、うがい、手洗い、歯磨きなどの励行と、家庭との連携を図ったがまだ十分ではなかったため、引き続き働きかけていく。特に、入浴が不十分な方は着替えも不十分なため、着替えと洗濯の支援を行ってきた。手洗い・うがいは外出後必ず行うよう声掛けし、点検も実施してきた。歯磨きは食後に行い、磨きが不十分な方には職員が手を貸してきた。出来たら歯みがき表に印を付けるようにし、意識を高めている。

ハンカチの所持やトイレでの靴の履き替え、汗拭きについては常に声掛けをしてきたが、十分ではなかった。

- ・全員が歯科検診を行い、結果はご家庭へ知らせた。
- ・保健だよりを発行し熱中症や感染症の予防を早めに呼びかけた。

② 環境美化委員会

家族の方の協力を得て、6月22日、12月7日に大掃除を計画し、本所と作業棟に分かれ作業室・食堂などの清掃・整理・ワックスがけ等を行い、環境美化に努めた。また、気持ちよく通所できるように、花の世話や草取りなどを利用者さんと一緒に行ってきた。

③ 安全委員会

- ・会議や朝のミーティングなどで事故防止に関する話し合いを適時行った。
- ・毎月1回施設内外の設備点検を行い、不良箇所の修正に努めている。
- ・今年度はヒヤリハット・事故ともに1件ずつの報告となった。備品の定期的な点検で防げることや、細かな配慮があれば防げることであり、今後は再発防止に努めていきたい。

〔ヒヤリハット〕 1件(1名)

〔 事 故 〕 1件(1名)

④ 人権擁護・虐待防止委員会

利用者さんの人権を擁護し、虐待を未然に防止するために、管理者を責任者とし、虐待防止の組織（人権擁護・虐待防止委員会）を設置。今年度も研修担当者との協力をし、合同研修会にて虐待防止チェックリストを使用し、利用者さんの人権擁護や虐待防止について職員への周知を図った。虐待防止チェックリストは、10月と3月(半期に一度)に実施し、職員一人ひとりが自己意識を高められるようにした。会議では、合同研修会での内容についての話し合いを行った。利用者さんの安心、安全と人権擁護の観点から、適正な支援が提供され、利用者さんの自己実現と社会参加のための支援を妨げることはないよう、定期的にまたは適宜、委員会を開催し、虐待の防止に努めていく。

4 行事・バザー報告

月	行事等	担当	参加者		バザー等	担当	参加者	
			はまべ会	ボラ			利用者	はまべ会
4	野外活動Ⅰ（花見）(6) 家族懇談会(27)		○					
5	野外活動Ⅱ（グランドゴルフ）(16)				ヤマハジャンボリー（28）			○
6	大掃除(22) 歯科検診(29)	環境美化委員会	○	○				
7	お話の会(6) 調理実習(10) 地域交流会(22)		○	○	地域交流会バザー(22)			○
8	納涼祭(7)							
9	お話の会(7) 軒花収めの会(25)			○ ○				
10	活動参観及び懇談会(19) 野外活動Ⅲ（ウォーキング）(26)		○					
11	総合防災訓練(6) お話の会(9) 野外活動Ⅳ（ミニ旅行）(13)(27)			○	ふくでふれあいまつり(19)			○
12	大掃除(7) ヤマハ労連観劇(14) クリスマス会(25)	環境美化委員会	○					
1	お話の会(11) 初詣・新年会(15)			○				
2	豆まき(2) 野外活動Ⅴ（工場見学）(26) 個別面談	担当・サビ管	○					
3	個別面談 お話の会・ボランティアさんに感謝する会(8)	担当・サビ管	○	○				
他	4～11月 ひろ道ウォーク実施 BDショッピング（誕生月実施）							

5 職員研修

年間計画を基に研修担当者で企画の立案と実施を行った。水曜日や土曜日の午後の時間を研修活動に充て、法人全体研修を5回実施した。

第2回合同研修会では、職場の安全を考えるために、イラストシートを使って危険のポイントについて話し合った。これを機会に相手の行動を予知・予測して行動することや、日頃から職員間の情報交換を密にして利用者さんの行動特性を把握しておくことが大事だと学んだ。また、第3回には職業人としての姿勢・マナーについて資料を読み合わせ、職員にとって重要な事柄をグループで検討した。

今年度は潮の香独自の研修は設けることができなかった。今後は職員間の情報共有や意識向上を図るため、出張報告やその他検討会等の機会を作っていく。

<活動内容>

日付	内部研修内容	担当者
6/7	<第1回合同研修会> ① 結・地域療育、地域生活支援事業 グループホーム 事業報告 ② 理事長講話	研修担当 各事業担当者
9/6	<第2回合同研修会> ① 防災について(地区別顔合わせ) ② 危険予知トレーニング(KYT)～グループワーク ③ 理事長講話	研修担当 防災担当 安全委員
11/1	<第3回合同研修会> ① 感染症について ② 仕事の基本(職業人としてのマナー)～グループワーク ③ 理事長講話	研修担当 保健委員
1/31	<第4回合同研修会> ① 不審者対策について～グループワーク ② 仕事の基本(人権を守るということ) ③ 理事長講話	研修担当
3/24	<第5回合同研修会> ① 人権擁護・虐待防止について ② 理事長講話	研修担当 人権擁護・ 虐待防止委員

6 地域生活支援

地域生活支援事業やライフサポート事業を利用して申し込みのあった、施設利用者さんや地域の方の時間外や休日の支援を法人内他施設と連携して受け入れた。日中一時支援事業を毎日利用して通っている方がおり、楽しく利用できるようご家庭と相談を重ねてきた。

7. 相談業務・福田地区チーム検討会参加

各相談事業所や市町の担当者と連絡をとりながら、利用者さんのご家族や地域の方から相談を受け付けた。内容は、在宅生活を支えるための各支援について、特別支援学校卒業後の進路等について相談があった。

また、福田地区在住のケースについては、各関係機関によるチーム検討会に参加し、引き続き地域生活支援のケース検討を重ねた。

8. 日常生活自立支援事業・成年後見制度

利用者さん2名が社会福祉協議会の日常生活自立支援事業を、2名が成年後見制度を利用して。生活支援員及び後見人等と協力し、計画的・快適に暮らせるように配慮をしてきた。今後も、ご家庭等の環境の変化により利用する方が増える見通しである。

9. 中遠地域自立支援協議会(磐田市、袋井市)

中遠地域自立支援協議会は、磐田市及び袋井市が地域生活支援事業実施要綱(厚生労働省通知)に基づき、障害福祉に関するシステムづくり(相談支援事業等)のため、関係機関の連携強化、社会資源の開発・改善等を推進する目的で設置し、代表者会、幹事会、とりまとめ会、作業部会(専門部会)をもって構成されている。この参加者については、今年度も法人全体で担当職員を決めて出席。会長には福浜会理事長、及び部会・検討会には福浜会から引き続き「重心部会」「防災部会」「自閉症等在宅支援検討会」「グループホーム検討会」に担当を決め積極的に参加した。

平成29年度指定特定・障害児相談支援事業所「結」 事業報告

1. 平成24年10月より磐田市の認可を受けて実施する。

(1) 事業概要

障害者（児）の自立した生活を支え、障害者（児）の抱える課題の解決や適切なサービス利用に向けて、ケアマネジメントによりきめ細かく支援する。

(2) 対象者

- ・ 障害福祉サービスまたは地域相談支援を利用するすべての障害者
- ・ 障害福祉サービスを利用するすべての障害児

(3) 対象地域・・・磐田市、袋井市、掛川市、浜松市、森町

(4) 内容

①計画相談支援

○支給決定時（サービス利用支援・障害児支援利用援助）

- ・ 支給決定又は支給決定の変更前に、サービス等利用計画・障害児支援利用計画（以下、「計画」という。）案を作成
- ・ 支給決定又は変更後、サービス事業者等との連絡調整、計画の作成

○支給決定後（継続サービス利用支援・継続障害児支援利用援助）

- ・ 厚生労働省が示した対象者ごとの標準期間を原則として、各市町で定める期間ごとに、サービス等の利用状況の検証を行い計画の見直しを行う（モニタリング）。
- ・ サービス事業者等の連絡調整、支給決定又は支給決定の変更に係る申請の勧奨。

②基本相談支援

- ・ 障害者や障害児からの相談に応じ、必要な情報の提供及び助言等の他、必要な便宜を供与する支援

2. 平成29年度を振り返って

- ① 平成27年度からは磐田市を中心とした近隣の市町でも、ほぼ100%のサービス利用者計画相談が実施され、現在は標準6ヶ月毎のモニタリングを通して、利用者の状況を把握し、課題解決の度合いや新たな課題を探り、今後の方針を確認することが主な事業内容となっている。
- ② その意味でも市の委託を受けている一般相談の事業所や就労・生活支援センター、または地域包括支援センターや介護保険のケアマネジャー等と連携しながら対応することは、重要な事柄となっている。中でも65歳以上となる利用者には介護保険優先の原則のもと、介護認定が求められ、利用者さんの高齢化と共に、老障介護の問題も深刻となる中で、高齢者を取り巻く相談窓口としての、地域包括支援センターとの連携は増々欠かせない状況となっている。その為、障害の相談支援専門員とケアマネとの交流会が年3回、福田地域包括支援センターと協働して開催され、多くの反響を得ている。
- ③ 児童の場合は「あにまあと」の放課後等デイサービスを利用している方の計画が中心で、平成29年度新規の2名を含めて、大半が重症心身障害児の計画相談となっている。
- ④ 中遠自立支援協議会の中に相談支援専門員連絡会があり、平成28年度は磐田市と袋井市合わせて15カ所の相談支援事業所が参加し、年間4回の連絡会を開催している。昨年度に引き続き各事業所の抱える課題の検討や、行政との計画に関するすり合わせ作業などが行われた。

その他

* 福田地域連携会議(福田地域包括支援センター主催) 年6回開催・出席

* 福田地区チーム検討会 年5回開催・出席

平成29年度の計画作成数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
計画作成	6	6	5	14	3	6	2	5	3	4	6	19	79
(児童)	1	0	0	1	1	1	0	0	0	3	1	4	12
合計	7	6	5	15	4	7	2	5	3	7	7	23	91
モニタリング	10	10	6	21	35	47	13	12	10	31	29	37	261
(児童)	0	0	2	3	1	6	3	1	2	1	1	1	21
合計	10	10	8	24	36	53	16	13	12	32	30	38	282

平成29年度地域療育支援センター 事業報告

1. 平成29年度の状況

登録者数 11人

在宅支援訪問療育等指導事業	実人員	5人	延べ回数	22回
在宅支援外来療育等指導事業	実人員	8人	延べ回数	8回
施設支援一般指導事業				0回

2. 内容については

- ・福祉サービスの利用援助・情報提供
- ・日常生活(医療的ケアを含む)に関する相談・支援
- ・医療的ケア児の在宅療育支援
- ・就学に関する事、学校卒業後の進路先に関する相談支援・情報提供
- ・就学前(乳幼児)や就学後(児童)の在宅支援 など

平成29年度は前年度の活動に加え、重症心身障害児(者)ばかりでなく知的障害や肢体不自由の方を対象とした動きが多かった。特別支援学校で訪問教育を受けていた重症心身障害の方の卒業後の支援として定期的に療育訪問を行ったり、本人を含む「家族支援」が必要となったケースもあった。重心児童を対象とした「あにまあと」での児童発達支援事業や放課後等デイサービス等の関係から、見学を希望されるケースやサービス内容について相談を求められるケースも依然多くなっている。

平成29年度 地域生活支援事業活動報告

静岡県及び各市町が定めた「地域生活支援事業」及び「障害児者ライフサポート事業」実施要綱等に基づき、各市町の委託を受けて地域生活支援事業・ライフサポート事業・福祉有償運送を実施。利用者さん等からの依頼を受け、必要に応じた地域生活支援サービスを提供することにより、障がいのある人やその家族が地域で安心して生活できるための支援を行った。

今年度委託契約して実施したサービス内容は次のとおり。

1. 提供サービス内容（各市町との委託契約を受けて）

地域生活支援事業（提供市町村：磐田市、袋井市、掛川市及び森町）

日中一時支援事業

移動支援事業（袋井市＝外出介護事業）

ライフサポート事業（提供市町村：磐田市、袋井市、森町）

ヘルパー派遣（自宅等での支援、外出支援、送迎サービス）、デイサービス

福祉有償運送（提供市町村：磐田市、袋井市、掛川市）

2. サービス提供時間

原則として6:00～22:00で対応し、支援を実施した。早朝や夜間時間帯の支援依頼はほとんどなかった。依頼の内容は、そのほとんどが8:00～19:00の時間内に集中していた。

3. 利用状況

施設利用者さんや特別支援学校の生徒さんからの依頼が中心だった。新規の依頼も、増加傾向にあり、施設見学や面談をその都度実施して、要望をお聞きした。契約するにあたっては受け入れ体制の整備をしてから対応している。そのために新規登録ヘルパーの採用や、法人内施設の職員体制について適宜相談して対応した。

移動支援に関しては、その目的に沿って、余暇活動の充実のための支援を行なった。健康維持のための散歩の依頼や、公共交通機関を利用しての外出の依頼があった。

施設利用者さんの早朝時間帯の利用や、日中活動終了後の延長利用、または施設閉所日における日中一時支援や移動支援の利用希望があり、それぞれの施設における職員の受け入れ体制を整えながら、できる範囲で対応している。

特別支援学校の長期休暇時には、受け入れ依頼が毎年のように増加傾向にある。

磐田市や近隣市町、相談支援事業所を通して、送迎を伴うサービス提供が可能かといった相談やいろいろなケースの相談があり、その都度各市町とサービス内容について確認をし、必要に応じて契約しサービス提供をしたが、短期の利用にとどまることも多かった。地域での受け入れを基本にしながらも必要に応じて受け入れる方向で検討していく姿勢でいる。

4. その他

土、日、祝祭日などの施設閉所日の支援に関しては、登録ヘルパーのみで支援を受けていることがあるため、利用者さんが楽しく過ごすことができるように、個々の判断に委ねるのではなく、登録ヘルパー同士がお互いに相談しながら支援にあたるようにしている。

大きな事故や利用者さんに怪我などはなかった。支援の内容などについて、問い合わせが数件あり、その都度ご家族へ説明をしてきた。処方薬の飲み忘れについてご指摘いただき、謝罪したことがあった。その後の支援について、必要に応じてヘルパーに周知、徹底した。

利用者さんの荷物の紛失に関する問い合わせが何件もあり、後日忘れ物が見つかったケースもあった。支援が終了する際には忘れ物がないように確認するよう意識付けをした。

別 表

H29 地域生活支援事業 月別実績件数

磐田市

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	H28
ライフ サポート	81	75	136	156	119	172	137	147	120	109	126	129	1507	1134
日中 一時	179	190	242	229	265	294	277	246	230	208	212	245	2817	2149
移動 支援	4	5	5	4	3	5	6	4	7	3	4	5	55	61
合計	264	270	383	389	387	471	420	397	357	320	342	379	4379	3344

袋井市

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	H28
ライフ サポート	31	30	18	8	3	14	13	12	8	9	12	7	165	207
日中 一時	60	43	58	51	68	74	57	55	39	36	47	41	629	819
外出 介護	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	91	73	76	59	71	88	70	67	47	45	59	48	794	1026

森町

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	H28
日中 一時	0	1	1	0	1	2	1	0	1	1	0	0	8	3
外出	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	1	1	0	1	2	1	0	1	1	0	0	8	3

掛川市

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	H28
日中 一時	9	7	8	10	12	14	8	6	9	11	11	7	112	161
合計	9	7	8	10	12	14	8	6	9	11	11	7	112	161

平成29年度 共同生活援助事業「汐風」活動報告

1. 入居者さん及び各グループホームの状況

【汐 風】

入居者さんの身体的状況を考慮し、体調観察や通院の支援、服薬の適切な管理など項目として整理し、その必要性に応じて実施している。そのうえで、業務日誌に記入しながら併行して体調観察を日々行ない、血圧や体温計のバイタルチェックや摂食量も把握していった。

春にはお花見、外食、クリスマス会、節分の豆まきなどの行事を、入居者さんと世話人とで共同で計画し実施した。

入居者さん同士お互いが気持ちよく過ごせる環境を模索するなかで、それぞれの気持ちに配慮した対応をその都度心掛けた。

【あしたば】

全身性障がいのある入居者さんの地域生活支援事業を利用しての通院や買い物、散髪、身体機能維持のためのリハビリへのお付き添いなどの依頼が定着して定期的にも実施している。在宅医療クリニックに月1回の訪問を依頼し、体調管理、健康維持に関し継続して把握した。

クリスマス会や食事会など、その時期に合わせて入居者さんと世話人とで共同で計画し実施した。夏にはあしたばに隣接する御殿遺跡公園で行なわれる御殿夏祭りへ参加した。毎年参加するのを楽しみにして定着してきている。

世話人だけで勤務シフトを組める状況にいったんはなったが、年度途中から配置が難しくなり、その時々に応じて法人職員が勤務に入る状況がしばらく続いている。引き続き継続して求人募集して人材の確保を目指している。

【日 和】

入居者さん同士が良好な関係でいられるように世話人が言葉がけ、促し等して配慮をしているが、関係性の中で難しい場面も多く、言い争いなどトラブルになることが時々みられた。

202号室の入居者さんが7月よりみぎわへ転居し、新しい生活を送ることとなった。このことでみぎわから転居してきた入居者さんを202号室にて受け入れた。生活環境が変わり、しばらく様子を見ていたが、入居者さんとの関係や摂食に関してははたらきかけが必要な状況である。

水曜日の午後の時間を利用して、日頃行なえない掃除を実施するなど業務内容の見直しを図って、定着している。

食事会など、その時期に合わせて入居者さんと世話人とで共同で計画し実施した。

一般就労している方の一人暮らしへの実現については、依然として労働所得が安定しないことで毎月のGHの利用料の支払いについても滞りがみられており、なかなか前に進まない現状。11月に交通事故（追突）を起こしてしまったが、幸いにも車の損傷や怪我は無く、大事には至らなかった。

袋井特別支援学校高等部を今春卒業した方を障害者GHサテライト型（本体住居：日和）でH30.3.23から受け入れた。児童養護施設“まきばの家”から生活の場を磐田市豊島に移した。

【みぎわ】

365日開所のホーム。身寄りがない方もいるため、時期に合わせて楽しめる行事を行なってきた。昼食会を開いたり、ファミリーレストランへ外食したり、地域で開催された“ふれあいまつり”へ参加した。

休日に育成会や地域行事の一環で外出を楽しみにしている方には、その外出に必要な手配（参加の用紙への記入、タクシーの手配やバス時刻表の確認と持ち物の確認など）をした。地域へ出かけ、充実した余暇を過ごした。

日和から1人の入居者さんが転居した。実家が近いこともあり、週末自宅で過ごすのか、みぎわで過ごすのかについてはご家族のお兄様と本人の意思確認をしながら、居宅介護サービスで定期的に訪問していたヘルパーさんの援助事情も含んで組み立てた。みぎわでの新しい生活に慣れていくなかで、次第に本人から“みぎわで過ごしたい”といった言葉が出るようになり、その気持ちを尊重しながら、週単位で確認しながらみぎわでの受け入れについて世話人へ知らせている。週末利用していた日中一時支援事業の利用は次第に減り、今は利用が無い状況。週末はほとんど“みぎわ”で過ごすスタイルが定着してきている。

2. 世話人体制

汐風、日和、みぎわは基本的には1日通して世話人一人体制で勤務し、あしたばは全身性障がいの方がいるため、時間帯によっては2人体制で勤務した。

夜勤体制を継続して実施した。夜勤の勤務内容としては、就寝への促し、夜間の見回り、入居者さんの安全確認、夜間における緊急時の対応である。日和の夜勤は週2～3回夜勤者を配置した。日和以外のグループホームの夜間体制は、毎日1名の夜勤者を配置した。また、世話人だけで全てのホームの夜勤体制を敷くには大変さがあり、法人職員に夜勤をフォローしてもらった。法人の職員が夜勤に入った場合、グループホーム従事者（非常勤職員）としての位置付けをした。

また、週末自宅に帰省せず、ホームに入居者さんが留まって過ごす事があり、状況に応じて、世話人の勤務体制を整えるなどの対応をした。

世話人の事情等により、年間を通してあしたばの勤務体制がめまぐるしく変わり、その都度勤務シフトを組み直さざるを得ない状況があった。このことから世話人の確保の問題が当法人でも浮き彫りになったと感じている。内部包括型の運営をしていくために、世話人の絶対数の確保は重要課題である。

3. 健康管理

毎朝のバイタルチェックとして検温を行い、健康管理に留意した。高血圧が気になる方には、定期的な通院の支援と毎日の血圧チェックをした。食事に関しては、肥満等の予防も兼ね、栄養バランスなど考えた世話人の手作り料理を提供している。服薬については、ホーム毎にその方法を決めて取り組んだ。体調不良など、普段と違う様子が見られた際には、日中活動の施設の職員とその都度相談し、ご家族と相談して、その後の対応をした。

就寝前後、起床前後のエアコンのスイッチON⇔OFFや温度調節などを行った。

また、時間を見つけ、入居者さんと散歩に出かけ、体力維持、運動不足解消を図る機会とした。消毒処置を定期的実施した。

4. 活動起案書による余暇活動

入居者さんより外出や交流会や外出などの希望が出た際は、世話人と相談しそれぞれのグループホーム単位で計画を立てて実施し、余暇活動の充実を図った。

5. 購入物品について

ホームの生活に必要と思われるものについては、世話人さんより意見を伺い、その必要性について精査し、妥当と思われる物を購入した。入居者さんの個人の居室に欲しいものなどについては個別の費用負担としてご本人やご家族と相談して購入した。

日用生活品については、宅配をしてくれる業者へ定期的に発注をかけ、依頼するようになった。

6. その他

ホーム毎に世話人と定期的に話し合いを行い、勤務シフトの確認と入居者さんの直近の様子の申し送りや、業務の流れの確認などをした。通常と異なる状況や様子が見られている入居者さんについて、その前後の状況や出来事の情報共有のため、ノート等による申し送りや、必要に応じて勤務前に連絡を入れて報告をするなどして対応した。また、職員がバックアップに入った際には、世話人との情報交換なども行った。

世話人に対しては、会議の折に法人の理念や目的に沿って基本的な関わり方、業務の流れの理解を大事にしながら、それぞれの世話人が同じ方向性で支援にあたってもらうように折に触れながら、定期的に法人で行なわれる職員向けの内部研修への出席を世話人へ要請し、研修を重ねてきた。外部研修への参加としては、中遠地域自立支援協議会のGH検討会への参加や静岡県知的障害者福祉協会の地域支援部会における研修会への出張などがあり、一部の世話人を引率した。

防災対策については、必要と思われる物品をそれぞれのホームへ購入し、非常食についても整備をし、飲食料を世話人分含めて3日分を用意してある。また、MCA無線機、トランシーバーも配備している。普段からの予防意識に加え、これらの有効的な手段を活用できるよう意識付けたい。